

平成30年度第3回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：平成30年7月20日（金）

午前10時

場所：白井市役所本庁舎1階
会議室101

日時：平成30年7月20日（金）午後10時～午後5時40分

場所：白井市役所東庁舎1階 会議室 101

出席者：【委員】

関谷 昇会長、助友 裕子副会長、手塚 崇子委員、松本 千代子委員
黒添 誠委員、山本 昌弘委員、西飯 峰委員、鈴木 フミ子委員

【事務局】

中村課長、富田主査、多納主事

傍聴者 3名

1. 開会

【事務局】

平成30年度第3回総合計画審議会を開催いたします。

2. 議題

(1) 評価の実施

【会長】

それでは、始めさせていただきますと思います。

今日は3つの施策を予定しております。

まず、進行について確認させていただきたいと思いますが、それぞれ各委員のほうから外部評価シートというものについて一定の記入をしてきていただいているかと思いますが、一巡目ということで、各委員のほうからそれぞれご記入いただいている外部評価シートについて、自分はこの施策については、この部分でこういった評価をして、あるいはこういった課題があるということの評価項目全部じゃなくてかまいませんので、それぞれ気になっている部分とかいうことをピックアップしていただきながら、お話のほうをいただきたいと。

基本的にそれぞれの個別の評価をおっしゃっていただいてもかまいませんけれども、一応最低限、総合評価について、自分は例えばA評価だとかB評価だとかということをおつ

しゃっていただいて、理由とあわせて若干の説明のほうをいただければと思います。それをまず、一巡目ということで、各委員のほうからお願いをしたいと思います。

それを踏まえた上で二巡目としましては、今後に向けてどう改善していくべきか、ご発言のほうをいただければという形で回していただきたいと思います。

まず一つ目の施策、3-1、都市拠点にぎわうまちづくりということで、まず、これから取り上げていきたいと思っています。

それではまず、委員のほうから評価を伺っていききたいと思いますけれども、ど最初、委員のほうから時計回りで進めさせていただきます。

【委員】

まず項目に従いまして私が感じたことということをやっていききたいと思います。

それから、評価でA、B、C、Dと四つあるのですけれども、全てBなのですけれども、期待を上回っている、Cだと期待を下回っている、期待どおりというのがないので、非常に評価のしようが難しいのですけれども、まあまあいいかなというBになっちゃって、期待を上回っている、そういう意味じゃないのだけどという感じで、非常に変だなと思っているのがあります。

ということで、取り組み状況につきまして、目標実現に資する取り組みとなっているかということで、そういった意味ではBとしてあるのですけれども、市役所、白井駅、それから西白井駅周辺と書いてあるのですけれども、私、たまたま西白井駅周辺に住んでいるのですけれども、そこで商業施設の誘致っていうのは、これはどう考えても難しいんじゃないかなというのが一つありました。

市役所、白井駅周辺というのは、この前もお話がありました、根のところでやっているということもありますので、そういった意味ではBかなということです。

市民ニーズと即した取り組みとなっているかということにつきましても、Bとしております。

ただ、マルシェっていうのは、お祭りと言えぱお祭りなのでしょうけれども、年に1回か2回ぐらいが果たして市民ニーズなのかなというのが、ちょっと感じたところです。

他の分野や市民等と必要な連携が図れているかというのは、これは特に取り組みの1と取り組みの2というのが、どうもかけ離れたような感じになっているので、それとの連携というのは、あつていいような、ないような、そういう意味でないかもしれませんが、これもBとしてあります。

成果につきましても、Bです。道路整備は順調ですけれども、他のほうの白井市と根地区の取り組み1については、果たしてそれが順調なのかなっていう気がしますけれども、まあBということにしてあります。

1次評価の進捗状況の評価については、順調ということになっていますので、おおむね妥当であるというふうに考えております。

今後の課題や問題点が的確に捉えられているかというのは、今回の審議会等を踏まえて、どういうふうと考えられるかということも考えますと、とりあえず課題というものはありますし、方向性も一応きちんとしているのでしようけれども、実現性についてはよくわかりませんが、とりあえず両方ともAにしてあります。

わかりやすさについてについては、私から言いましたけれども、みんな見ればわかるのではないかっていう意味でBとしてあります。

施策の総合評価につきましても、これもBとしてあります。

【会長】

ありがとうございました。続いて、委員さんお願いします。

【委員】

取り組み1につきましては、大体B評価です。

理由は、市役所、白井駅周辺というのは結構重視しているなと思うのですが、私の最寄り駅になる西白井のほうが、もうちょっと何かいい方法がないのかなって、先ほど委員が言われましたように、ちょっと偏っているなという印象があります。

西白井のほうが駅前の流動人口多いですね。使っている人多いのににもかかわらず、あんまりにぎわいづくりのほうには視点が置かれていないのかなって感じがしましたので、ちょっとその辺の偏りが気になりますので、全体としてはB。

取り組み2につきましては、工業団地のアクセス整備ってというのは順調に進んでいると思いますので、その点は評価したいと思います。でも全体としてBというふうに考えます。以上です。

【会長】

では次の人、お願いします。

【委員】

評価に関しては、BかCかなっていう、ちょっとCに関しては厳しいかなと思うのですが、この間の質問でもしましたけれども、工業団地に関してはスピード感をもって進んでいるけれども、駅前はどうなのか。

白井駅前なのですが、20年前から比べると、人のにぎわいってというのは、20年前のほうがまだ駅の北側にお店がちょっとあって、若い人たちもいっぱいいたって印象が残っているものですから、ちょっと評価が落ちるかなということと、やっぱりもう少し駅前に関しては白井市の玄関だと思いますので、市民だけじゃなくて、外部から来た人たちが駅をおりたときに、どういうふうな印象を持っているかっていうことをもう少し考えていただけたらなっていうのがあります。そういう人たちにとっても満足感があってほしい。ということでちょっと厳しいかなという評価にさせていただきました。

【会長】

では次の人、お願いします。

【委員】

目標の実現に関する項目は、これは私、Bです。工業団地の取り組みの道路の問題をこれだけ大きくした感じで、あれを見させていただいて、ここが重要だと再確認したので、それでBにしましたけれども、駅前商店街の施設のほうは活性化の取り組みが十分ではないかなって、お米屋さんとか、いろいろなところのシャッターがおりているのですね、移転されて。

それで、市民のニーズに関しては、これもBです。高齢化社会の対応が検討されていないかなと感じました。

というのは、イオンなんかの場合は、高齢者とか障がい者の人は300円払いますけれども、配達してくれるのです。

ほかの市町村を私、視察に行ったのですけれども、そしたらやっぱりワゴン車でいろいろなものを配達してもらったりしているので、そういうのをちょっと考えたらいいのかなと。

次は、他分野のほうでは、これも私はBにしました。市民のニーズの調査をさらにすべきだと思います。これは市民の方からの意見もありました。

次は、成果ですけれども、これもBで、駅前商店の活性化に向けて、これ同じようなことなのですけれども、再検討の余地があるのではないかなって。工業団地のほうの目標は、すごく逆に展開されているので、いいかなと思っています。

それで第1次評価のところ、次の課題、駅前商店街事業者と行政との協議が、もうちょっと図られたらいいのかな、そうするとシャッター通りにはならないのかなって、ちょっと思いました。

その次もBです。市の中心核となる商店街のあり方、これも同じようなことなのですけれども、これも再検討してほしいなと思います。

広報なんかの市民にわかりやすい記載というのは、私はよくできているホームページだし、広報等もいいのかなと思うのですけれども、障がいの方とか、いろいろな方に聞きましたら、やっぱり読みにくい。ホームページなんか見ないよっていう人が結構いらっしゃるのです。

ただし聴覚障がい者っていう人は、スマホで全部とっちゃいますから、結構逆にそういう方たちは情報が入っているというのがありました。

総合的にはBの評価としましたが、駅前商店街が一番ネックですね。さっきもおっしゃっていましたが、白井の窓口なので十分に検討してほしい。

【会長】

では、次お願いします。

【委員】

今のところ、私は全部Bにしておりまして、取り組み1に関しましては、商業施設のど

ころに保育・子育て施設の誘致を図る計画というところで、今後を見据えたものであるというところを評価しました。

ただ、ときめきマルシェに関しては、いろいろな方が参加して数もふえているということだったのですけれども、数が問題じゃなくて、そのマルシェの個々のものがもう少し連携とか協力とか商品開発とか、何か可能性を生み出すものにならないと、ただのマルシェで終わってしまうというところが、もう少し。せっかくマルシェを成功しているので、その次につなげるために例えばアンケートをとるとかの方法をとると、もっとただのマルシェから次につなげる、一歩先につながるのではないかと思うので、そのマッチングができるような何か材料についてアンケートをとるなりして、そこでまた組み合わせしていくというのを今後必要じゃないかなというように感じました。

施策の展開の状況のところでも私も質問させていただいたのですが、企業誘致のインセンティブというところでお伺いしたところ、下水道の接続の受益者負担の低減であったり、固定資産税に見合う金額のバックだったりというようなことをお考えいただいているということがありましたので、全体としてBにいたしました。

ただ、この都市拠点がにぎわうまちづくりのところで、毎回思っているのが、そのにぎわいの意味が市内だけを見ているのか、市外の人も含めたものなのかというところで、駅のところをご立派なものじゃなくてもいいので、何か人と待ち合わせできる場所を。

私も市外から来て、西白井や白井に用事があっても、一度あえて新鎌ヶ谷か、その隣のニュータウンに行って時間を潰しておる一人です。

なので、それだと人が来ないので、外でも行ったら何か興味が湧くようなものがあれば次につながるのですけれども、本当にほんの少しの場所、居場所づくりがあればいいのかなと思います。

それが例えば、私みたいに仕事で来る人もしかり、あとはお子さんがいらっしゃって、車じゃなくて駅で過ごしているような方の子どもと遊ぶような施設、ちょっとした子育てサロンじゃないけれども、そういうものでも人が集まれる機会になると思うので、白井市は多分車が必要なところではあると思うのですけれども、車がない人でも集まれる条件でないと、やっぱりにぎわうっていうのには、ちょっと難しいんじゃないかなというのを感じております。以上です。

【会長】

では、委員、お願いします。

【委員】

総合評価は、Bとさせていただきます。総じてBが多かったのですけれども、唯一課題と方向性のところがCが二つという形になりました。

と言いますのは、いろいろと社会実験というような表現のされ方を耳にしました。

例えば社会実験の一つが、ときめきマルシェということだったのですけれども、すごく

試行錯誤感があって今これから発展していくのだろうなっていう状況を理解しました。

もし試行錯誤をされている最中であるとするならば、形成的評価、現状分析をもう少ししっかりされたほうがいいのかと、もしくはされているのかもしれませんが、その現状がどうなっているのかという分析をして、それが結果的に市民にとってのわかりやすさというところにもつながるのかなと思いました。

例えばですけども、にぎわいっていうところの意味もさることながら、例えば1次評価の定量的なところに、駅周辺がにぎわっていると思う市民の割合というものが一つの現状把握の指標として上がっているわけですけども、多分このレベルではまだまだ大き過ぎる次元なのだと思います。

このにぎわっていると思う市民をふやすために、実際事業としてどんな成果が出ればいいのか、その成果を出すためにどんな取り組みをしたらいいのか、よくインプット、アウトプットと言いますが、そのあたりをもう少しわかりやすく具体的に示していただくと、すごく評価もしやすくなるかなと思いました。

例えば、ふるさとまつりの来場者数とか出店した団体の数とか、そういった量的なところで把握するのもいいですし、量もさることながら質的にどうだったのかという意味では、どのぐらい打ち合わせの回数を行ったのかとか、そういったところがもう少し見える化されるといいのかなと思いました。

現時点では、どのぐらいイベントをやったかのようなところはすごく前面に出ているので、おそらくイベントをやった当日以外の部分でも、1年を通じていろいろと課の中で活動されていることがあると思いますので、それをもっと知りたいなと思いました。そうしますと、おそらく先ほど委員からお話があったような、市民ニーズに即した取り組みになっているのか、否かというあたりの評価が、もう少しクリアになってくるかなと思いました。以上です。

【会長】

最後、私のほうからですけども、トータルな評価ということで言うと、Cに近いBという感じがします。

確かに、ちょっと評価しづらいところもありますし、この取り組み1と2ではちょっと意味合いが違うところもあるので、都市拠点というふうな形ではくくれるかもしれませんが、ちょっと評価という視点からするとしづらいというのが、皆様のご意見を伺っていてもそんなところが感じられます。

ただ、一応この枠組みでの評価ということですので、一応B評価ということに個人的にはさせていただきます。

やはり、取り組み状況等々については、駅周辺のにぎわいですとか、あるいはまちづくりのコンパクト化といったようなことを念頭に置きながら、さまざまな集積機能を高めていくですとか、人の移動性、あるいは人が集まりながらのにぎわいをつくり出していくと

いうふうなことが念頭に置かれた施策にはなっていると思いますけれども、先ほど委員のお話にもあったように、どういう市民ニーズに合わせていくのかっていうふうな部分ですね、この辺がもっと詰められていってもいいのではないかと。

もっと言ってしまうと、にぎわいって何をもってのにぎわいなのかっていうことがもっと深掘りされる必要があるかなというふうに思います。

これは白井に住んでおられる方々が集まるにぎわいの場なのか、市外からもっといろいろな方々に訪れていただくという意味でのにぎわいなのかということによって、戦略は大分変わってきます。両方必要だっていうふうな思いもあるのかもしれませんが、それは逆に言うと、両方戦略がないっていうことを意味するのであって、要するにどこのターゲットを合わせて、そのターゲットに合わせて何をするのかということ徹底的に洗い出していきながら、その施策の中身というものを詰めていくということをしないと、それは成果っていうことにつながってこない。ですからこういう取り組み状況は私もB評価としてあるのですけれども、成果っていう点においては少し厳しい評価になっているというところがあります。

あと方向性という点においても、こういった取り組みを続けていながらというふうなことはもちろんわかるのですけれども、今言ったような根本的な部分で、どういうにぎわいをつくり出していくのか、あるいは駅から市内への回遊性っていうふうなこともどう考えていくのかということも、この都市拠点のあり方によってかなり変わってくるかなと。

実はそこから移動のあり方とか、いろいろな問題がまたかかわってはきますけれども、それはまた別な違う施策のときに申し上げることにして、この都市拠点がにぎわいまちづくりということと言うと、何ををもってにぎわいなのかということが、ちょっと見えづらいというところがありますので、方向性としても、そういう意味では少し評価が下がらざるを得ないところがあるのかなというのが個人的な見方です。そういう意味でC評価に近いBというふうなニュアンスです。

それから、工業団地へのアクセス道路の整備ということで、工業団地については、先週取り上げた施策の中でもいろいろご議論をいただいたところですが、ここでの位置づけというのは、アクセス道路の整備ということなのですね。だから、産業道路としての機能性を高めていく、実質1車線のを拡充していくというふうなことが、ご回答としてはいただいておりますけれども、これを工業団地というものの持つポテンシャルっていうものを生かしていくのだということが、前回も議論としては出ましたけれども、工業団地が今の時代状況下で、白井においてどういう価値というものを持っていて、それをこれから白井市がどういうふうにさらに生かしていこうとしているのかという部分があっではじめて、このアクセス道路っていうことの意義が見えてくるはずなのです。

けれども、工業団地っていうものが、白井のまちづくり全体の中で、どんな方向性のもとに位置づけられていくのかという部分が、まだ詰められ切れていないのかなっていうふ

うな印象もあって、このアクセス道路の整備というものも、それに合わせて評価しづらいところがあるなというのが個人的な印象です。

ただ、これも用地取得等とあわせて、今の方向性で進められていくということで、それ自体別に評価が下がるというものではありませんので、その点については一定の方向で進んでいるかなというふうには評価しております。ということで、B評価ということにさせていただきます。

あと、一通り各委員のほうから評価についての話を伺いましたけれども、全体としての評価ということを少し確認させていただきたいと思います。今の話にありましたように、基本的には皆さんB評価、委員さん、BかCかという話でしたけれども、一応B評価、ニュアンス的には少し厳しい部分も含めたB評価ということかなというふうに思いますけれども、総合評価としてはそのような結論づけでよろしいでしょうか。

中身についても、取り組み状況については、大枠としてはいいのだけれども、にぎわいのあり方ですとか、市民ニーズにどれくらい適っているのかとか、あるいはもっと言えば市民からしてもにぎわいっていうものが感じられない、あるいは居場所っていう点からすると駅の近くに行って、「みんなでゆっくりしようね」とか、あるいは外から来た人が、それがどういう目的であってもいいけれども、「ちょっと休もうね」とかいうふうに思えるような場所がないってのが率直な印象であって、そういうふうに考えていくと、先ほどの何をもってのにぎわいなのかってということにもかかわってはきますけれども、そういう市民感覚からしても一体これからどうなっていくのかなというふうなところもあるかと思えます。

あと白井と西白井の駅の違いというものをこの戦略上どうなっているかっていうことも本来は議論されてしかるべきであって、これももしあれでしたら、担当者の方々にお答えいただければと思いますけれども、そういうもしかしたら偏りがあるんじゃないかというふうなご指摘ですとか、あるいはそもそもにぎわいって駅周辺がにぎわうことがにぎわいなのかというふうなことも含めて、いろいろ問われるところではありますけれども、いずれにしても、そういういろいろなニーズということとのかかわりでもう少し改善の余地があるのではないかといったこともあったわけです。あと成果っていう点でも、まだまだにぎわっていないんじゃないかというふうなご指摘もありました。

それから、今後の課題、方向性ということでも、緩やかな方向性としてはいいのだけれども、もっと実質的な部分でさらに踏み込んだ歩みを進めてもらいたいというふうなところもあって、トータルな評価としてはB評価というのが、大体皆さんのご意見を伺った上での評価のしどころかなと思いますけれども、全体の評価にかかわることで、もう少しご指摘されたいことがありましたらお願いをしたいと思いますが。

そのご指摘をいただいた後、今度は二巡目ということで、今言ったような評価、それから現状を踏まえた上で、こういうところをもっと改善していくべきじゃないかというふう

なご意見をいただく予定でいます。

ちなみに、そのいただいたご意見は、この後のワークショップの中でさらにもんでいくというふうな形にしたいと思っておりますので、この会議の場では、まずこういった部分をこうしたほうがいいんじゃないかという、そういうご意見をいただく予定です。それがこの後のお話ですけれども、まず今の評価という部分で、もう少しプラスして確認しておくべきことがありましたら、ご指摘いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

【委員】

前回の勉強会で申し上げたのですけれども、にぎわいの視点をやっぱり商工業、それから保育子育て施設等の充実というところがあるのかと思っておりますけれども、文化的な拠点という側面も白井にあってもいいのではないかと、そこから見ると文化的なにぎわい拠点って、市役所周辺しかないのです。西白井駅にはあんまり、公民館みたいなのはありますけれども、あれぐらいで、そんなちょっと偏在しているのではないかと、もうちょっと分散化してもいいのかな、文化的なにぎわい施設が市役所の周りしかないっていうのは、どうなのかなって。

白井第二小学校の周辺ってすごくのどかなところですけども、ギャラリーというか、陶芸とかやっている方がいっぱいいますので、秋になるといっぱい私行くのですけれども、ああいう文化的な側面というのをここの施策の中にあるのかなと。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。文化という点でコンパクト化するということの長所、短所でもあって、いろいろな機能を持ったものが集積されるというような一方で、望ましいわけですけども、逆に言うと都市拠点のあり方として、例えばそういった文化的側面ということ考えたときには、どうも偏りがあるんじゃないかというふうなところもありますし、そういう役所とか駅とかというものが都市拠点なのだといったとしても、じゃあこれはつなぐという施策のところ、また議論にはなるかもしれませんが、その辺のバランスということもどう考えていくかとかいうことも、一つの課題としてはあると思えます。

【委員】

この取り組み目標っていうのですか、この目標の中で取り組み状況はこうですよということを二つ、取り組み1と2というふうに掲げてあるのですけれども、この取り組みの目標については、こういうことをやりましたというのが、今までの市の考え方ということで、それはそれで1次評価的にはおおむね順調ということは当然の話だと思うのですけれども、端から見ていると、今言ったような批判というのですか、いろいろな形がありますけれども、にぎわいづくりっていうのは、どういうことなのっていうことで委員もおっしゃったような、いろいろなコアをつくっていく、それが白井にも白井駅近辺にも大事、西白井にも大事とするのか、それともこれは白井だよ、これは西白井だよっていう、そういう分け

方があっていいと思うのです。

ただ、そういった中で、これはそもそもの方法論になると思うのですけれども、この都市拠点のにぎわうまちづくりっていうので駅周辺のにぎわいと、工業団地に向けた環境整備っていうのを分けて、3-3のところのコーディネーターをにぎわいづくりのほうにくっつけて、道路というのは、別の方向にしていかないと、この二つというのは、どうも何かなじまないような気がするのです。

もっと言いますと、ある意味駅前のにぎわいっていうのができておまして、皆さんもよくおわかりだと思いますけれども、白井の駅前にケーズデンキって大きな電気屋さんがあります。

あれは、あんなところにケーズデンキなの、もっと車が利用するような郊外のほうにあっていいんじゃないか、あれだけあるからちょっとしたものができないというのも、あるんじゃないか、それは白井、西白井も含めてなのですから。

それから、シャッター街的な感じになっておまして、前回も使用料が高い、何で高いのだという、都心に近いところだから必然的に高くなっている、だけど白井市にしてみれば非常に高く、なかなか借り手がいないというのもあるということもあります。

もう一つ、ついでに言わせてもらおうと、子どもと一緒ににぎわうまちづくりというような形ですと、今ある施設の経営している方というのが協力してくれればいいのです。

例えば、西白井の駅前にマルエツって、お店があります。その2階はほとんど客が入っていない。100円ショップもありますけれども、ほとんど客が入っていない。だったら、あそこを保育施設にして夜遅くまで預かって、そういうことをすれば、マルエツも終電までやっていますから、そこにお客さんが来て、子どもを迎えながら来るという、そういったにぎわいの仕方ができるのではないかと、だから、お店に対して介入するというのは難しいかもしれませんが、そういった協力をやってくれないかなというの、ちょっと思ったりしているのですけれども。

【会長】

いろいろご提案については、この後伺いたいと思いますので、評価という部分については、今の委員がおっしゃっていただいたようなことを踏まえた上での一応B評価ということで固めさせていただくということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、以上の評価を踏まえた上で、さらに今後に向けた改善点についてご提案、あるいは意見交換をできればというふうに思っております。これについては、特に順番とか決めませんので、それぞれこういうところをこうしたほうが、まさに今おっしゃったような、マルエツを子育て施設にリニューアルするべきだというふうなことも含めて、どんどんご指摘をいただければと思います。一応時間が、11時10分までということですので、あと20分ちょっとぐらいですけれども、ぜひご提案いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

工業団地のアクセス道路ができ上がると、16号までスムーズに行けるっていうだけなのですか。何か、その後が新しい高速道路ができるまではそんな大して変わらないのですね。道路を広げて通りやすくなるということで、そんなに交通量って多いのかなという気がしますけれども、ただ、広げて道路を大きくして流通がよくなるということは非常にいいことだと思うのですけれども、そこの先の目標というか何かあるのですか。

【会長】

一応、質問に対する回答に一定のことが書かれてありますけれども、それを踏まえた上で、少し担当のほうからさらに補足的な説明があればお願いをしたいと思います。

【都市計画課長】

まず工業団地のアクセス道路については、位置的なものをまず確認なのですが、国道16号の富塚地先から工業団地につながる道路を指しております。

現状、工業団地へアクセスする路線が大型車は実質1路線となっており、そこ1カ所しか現在大型車は通行できないことになっています。実際は、ほかのルートも大型車が入り込んでいるのはあるのですけれども。

そこは、ちょうど第二小学校の前も通過するところで、子どもの安全性の面ですとか、あと16号との交差点部分がどうしても渋滞してしまうということが大きなネックになっております。

一つはアクセス道路をつくることによって、結局工業団地のほうとしては、物流を早く動かすというのはやっぱり大きな使命でございます。ですので、そこで渋滞するとそこにはロスが生じてくるので、いろいろなものに最終的にその部分が負荷されてしまうわけですが、アクセス性を向上させるということで、この工業団地アクセス道路を今、計画して、これは重要な事業として進めているところです。

もう一つ、前回もちょっと話が出ておりますが、市のほうで構想道路というのが都市マスタープランで示しております、それは資料2と、皆さんのところに事前に参考資料として配付されている資料の図面で示している（仮称）木十余一線という16号から桜台を結ぶ路線というのが、もう一つ今これを検討したいというふうに都市マスタープランとかでも入れてございまして、要するに白井の大動脈はやっぱり16号と464号という、この二つの大動脈がありますので、そっち側のことも考えまして、この木十余一線についても、まずはアクセス道路が最優先でございますが、こちらのほうもそこに引き続いて検討は進めたいというふうに考えているところです。

【委員】

木十余一線の黒い線の手前のところというのは、工業団地のところにつながっているのですけれども、これは全然まだできていないのですか。

【都市計画課長】

黒いところ、こちらのほうは基本的には現道がございます。只今一部拡幅事業を展開しているようなところもあります。市街化から若干、工業団地から少し先の平塚地区というところのちょうど入り口のところあたりまではここ数年で拡幅をする予定で、ただ、この木十余一線に関しては、まだルートも、あくまで想定ルートくらいのところで、今後ルート決定もしていくような話でございますので、そこに一応今のところぶつけるようなイメージではございますが、どうなってくるかは、まだはっきりしないところです。以上です。

【会長】

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

さっきの話だと、都市拠点にぎわいのほうでは、商業施設づくりに目がいていたのですが、店舗がないということで商業施設をとということを書いたのですけれども、先ほど委員さんがおっしゃったように、文化的なにぎわいはというので、いろいろな特技というか、優秀な人材が白井にはたくさんいらっしゃると思うのです。

そういう人たちの交流会みたいな、そういうものを含めて文化的なものを打ち出していく、そういうにぎわいづくりというのも大事なというふうに、お店づくりも重要だと思うのですけれども、そういうにぎわいも必要だけれども、若い人たちも含めて、にぎわえる文化的な催しというか、そういう人たち、市民の人たちを活用というか、そういうので広げていくのも大事なと思いました。

【会長】

にぎわいといっても、そういうお店を誘致していくというふうなことだけではなくて、もっと市民の方々が積極的にかかわっていくと、あるいはそこで何か取り組めるような、何かそういう活動拠点のようなものをもっと積極的につくっていく。それはもちろん商業的な側面もあれば、もっと文化的な側面もあり得るわけで、そこはむしろ分野友好的に捉えていくようなイメージがあってもいいと思いますけれども、そういったのを地域の方々が参加するような形での地域の盛り上げ方、にぎわいづくりというものが必要なのじゃないかと、そういうご指摘だと思うのですけれども、大事な視点かと思います。それに絡めて、どうぞ。

【委員】

今、学術論文のサイトで、にぎわい、駅で検索をしてみました。

ざっとレビューをしてみた感想といいますか、情報を申し上げたいと思います。

まず、にぎわいって一体どういうことを言うのかというところで、論文のタイトルだけ見てみると、70件ほどヒットしているのですけれども、人を滞留させる仕組みがある、その状況のことを仮ににぎわいとしましょうというような定義が散見されました。要は駅前人が素通りするだけではなくて、そこにある一定時間とどまるっていう仕掛けがあるかどうかということだと思うのです。

そういったところで、論文のタイトルを見ていきますと、4種類、4パターン仕掛けづくりの仕組みが見られるかなと思いました。

まず、一つ目は、委員が先ほどおっしゃられた、文化的な拠点というところとつながるかと思うのですけれども。

図書館はそこにあるのですけれども、駅前に分室のようなものをつくって、いわゆる図書室のようなものを駅前につくって、そこに人がたちどまるっていう取り組みが生駒駅とか、岐阜のほうでの取り組みが一つ見られました。

それから、二つ目は、潤いっていうキーワードが出ていたのですけれども、よくよく考えてみると、こんなに地球が温暖化しているし、私自身の地元の武蔵境駅でも最近突然、もともと噴水とか、ため池みたいなものがあったのですけれども、いつも水が出ているかどうかのかわからないようなところに、反対側の駅の北側が開発されて、本当にすぐ手を伸ばせばお水に触れるような循環型の噴水っていうのか何と言うのかわかりませんが、小さな水場があるのです。そこに、そういえば子どももたちどまるし、お母さんたちもいるし、夏になると上半身裸になった子どもが入っているのだから悪いのだから、わかりませんが、いるなっていうことを思い出しました。それで潤いですね。駅前広場の活用というのです。

それから、三つ目のものとしては、同じ駅なのですけれども、道の駅的なものです。それが特に地方都市部に見られたなという印象があります。

そして四つ目は、商店街とか商業施設を駅前でどう活性化させるかっていうことなのですけれども、この四つを見ていくと白井としてできる取り組みっていうのが、最初の二つ、三つ目ぐらいのものかなという印象がありました。

ですから、文化的なもので人をとどめる仕組み、あるいは潤い、今の地球温暖化などのことを含めてという取り組み、いずれにしても人が駅前で素通りするのではなくて、滞留させるための仕組みというところで共通しているかなと思いました。

ざっと見たときに、1本だけネットからの論文がダウンロードできるので、それは横浜のほうの私鉄の沿線86駅ぐらいを調査したものの、市民の意識調査のようなものの結果なんか公表されていまして、もしまだごらんになっていないようであれば、そういったところも参考になるかなと思いました。以上です。

【会長】

にぎわいっていうことについて、今のお話はその拠点にとどまると、何をもってとどまるのかという視点から少し深掘りをしていくと、実際そういう動きがあるということで、特にそういう図書館分室のような、そういう文化的要素というものをそこに加えていくことで、一定の滞在というものがなされるようにするですとか、あるいはそういう潤いとかっていう、何をもって潤いなのかということがいろいろあり得ることですけれども、そういったものが駅前とか、そういう拠点にあるということが逆にいろいろな人の動きをいざ

なっていく、あるいはそこにとどまるというふうなことをつくり出していく。

だから、物を買ったりするという、そういう商業的側面だけではなくて、もっとそういった膨らみというか、厚みのあるにぎわいということを考えていくっていうことが非常に大事なんじゃないかというお話にもつながっていくのかなとは思っています。これも大事な視点かなというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。あと10分ぐらいですけれども、深掘りするのはこれからいろいろやっていきますので。お願いします。

【委員】

駅前にある公団がつくった梨のイメージをした噴水がありまよね。

あれは、予算の関係ですぐにとまっちゃって、今は閑散としています。

途中でお金がないから予算がないからってとまっている、白井外のところから来られたときに、閑散としていて、すごくそういう意味でも、休むところはないわ、噴水はないわ、離れたところに南山公園、あれも噴水ですばらしかったのです。それも全部ストップしちゃってという感じでいろいろなものがどんどんなくなって、もうちょっと何かされればいいのかなど。

結局あそこでも水でもあって少し流れていけば夏なんか特に涼しさを体験できるし、確かに予算もすごくかかると思うのですけれども、何らかの方法であれをうまく利用して、何か生かせる方法はないのかなって今言われてハッと思ったのですけれども。

【会長】

そうですね。潤いっていう視点、それこそ憩いというふうなことも含めて、これは今年度も我々の評価対象として、緑っていうところもありますけれども、実はそういう緑豊かなところと都市部とのつながり、これを今、白井ではうたっていることですが、例えばそういったところにも出てくるわけです。そういう自然的要素というものが、例えば駅前にはどんな形で感じられるのかというふうな部分も、実はつながってくる話ですね。

【委員】

最初はやっぱり都心から見えた方は、すばらしいねって。これ何のイメージって言ったら、多分梨のイメージだと思うって言ったのですけれども、そのうち常夜灯だけで、常夜灯も電気がつかなくなったのですね。だから、ちょっと寂しいなと思ったりして。

今、もう一つは、図書館の分室みたいな感じで駅前にあるのはあるのですけれども、私も時々利用させてもらうのですけれども、ここに来る時間がなかったら、でもやっぱり閑散としています。

図書館自体は、高齢者の方の憩いの場、寝ている方がほとんどですけれども、昼になったらおむすびを持って、こっちの文化ホールの大ホールのあそこで食べられますから、あそこで食べていらっしゃるのね。

終わると、すぐまた向こうへ入って、いざ勉強したいと思うときに、学習室に行ったら、

寝ていてですね。そこでは寝ないでくださいとか、こうしないでくださいって館長さんに言って、今はそれがだめになったから、すごく助かるのですけれども、そんな感じ。

ちょっと憩いの場を勘違いなさって、ある方から聞いたら、1日中うちにいられたらご主人に、大変だから出て行って、その図書館が一番いいっていうことで利用されている方が多いみたいなのです。

そうすると本当に勉強したい人がちょっと困るかなと、いろいろあるのですけれども。確かに、駅前にもあることはあるのです、図書館は。でも活用されているのか、少ないのかなと。もうちょっと何か考えれば、せっかくその場所はあるからと思うのですけれども。そういう感じです。

【会長】

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。こういうことをすべきとか、どうぞ。

【委員】

駅で降りて何も無いのがわかって、マルエツでトイレにでも入って、何か買って飲もうかと思っても、座るところもなく、噴水の石に座っていいのかなって、これってどうなのかなって悩んで、同じような人が同じような経路で歩いていて、同じことを思っている人がやっぱりいるのだからって感じながら、時間だから、もうちょっとその辺歩いて、本当に何も無いので、座って何かちょっと本当に一息できるようなところでもあれば全然違うと思います。

にぎわいをどう捉えるのかっていう基本的なところをつくってから話し合いをしないと、難しいかなっていう。

それぞれにぎわいのイメージも違うと思うので、白井がどこを目指していくのかって、前から私は話すのですけれども、それがきちんと明確でないと何か一つ一つの施策が全然点が線にならなくて独立してって、どうなのかなっていうふうに思います。

【委員】

昔、私が来たときは、青写真を見せていただいたときには、私も企業庁を回ったので、聞きに行ったりしていたら、駅の南側は住宅で、役所側に関しては、そういう商店とかそういうものに重きを置いて、だから千葉県なんかも全部、道の駅とか全部見てみましようという案があった。

【委員】

ケーズデンキを悪く言うわけではないのですけれども、今おっしゃったホームックがそういう食事をする場所があるのであれば、ホームックとケーズデンキ入れかわってれば、随分違ったと思います。道路一つ挟んで行くっていうのは、どうしてもわからないのです。トウズという店がわからないと、トウズはどこだといったら、ロータリーの端っこのほうですね。だからわかりにくいという、本当に必要なものが必要なおとところにあって、わか

りやすければ一番いいのですけれども、そういうのがないのです。

【委員】

それで昔は大きな商店、スーパーとかつくる時は県から依頼されて、全部調査表を出さなきゃいけなかったのです。

【委員】

白井市に大きな商店はいらないと思うのです。大きなところへ行きたければ、あるのですから。

【委員】

隣の印西に私も行きますけれども。

【委員】

だから、そういったものではなくて、自分たちにすらっと行ける簡単な場所があれば一番いいのだけでも。

【会長】

どうでしょう、ほかにご提案とかございますか。なかなか難しい課題ではあると思いますけれども、今、皆さんからご指摘いただいたことを最後に整理して、あと私のことも付け加えさせていただければと思いますけれども。

とにかく、一つは何をもってのにぎわいなのかということをもっとクリアにさせていくべきなのじゃないかという意見がかなり多く出されたように思います。

要するに当事者目線ですね。駅をおりて、どうするかっていう、ちょっと休みたい、ちょっとお茶を飲みたいというふうな具体的なことを考えていったときの、要するに環境の乏しさというものが白井に来る側の目線からすると、非常に色濃いのではないかというふうな部分もありましたので、そういうことも含めて何をもってのにぎわいなのかというふうなことをしっかりコンセプトとして固めていく必要があるのではないのかというのが、まず大きな話としてあるところです。

今おっしゃったように、大きな商業施設はもう要らないのだと、つまり印西、鎌ヶ谷、柏、船橋等々に囲まれている中で、同じようなにぎわいの場所を白井にもこれからまたつくっていくのだということの優位性がどれぐらいあるかということですね。

だから、白井には白井なりのにぎわいっていうものがあるのだからって、そういう視点を着実に持っていくべきだというふうなことは一つあるのではないかと思います。

それにあわせて、先ほどご指摘いただいたような、要するに拠点には、とどまるというふうな視点がなくて、そういう文化的視点からそこにとどまっていくと、駅前図書館ということも近年出てきていますし、もっと言っちゃうと、お金がないところというのは図書館を建てられないと、だったらどうするかっていうと、市民から本をかき集めて、市内の例えば公民館だとか、あるいはもっと言ってしまえばガソリンスタンドとか、そういったところにミニ図書コーナーみたいなものをつくって、市民の方々がどこでも本に触れられ

るようにというか、そういうまちづくりをやっているところだってありますよね。千葉県内だと、一宮なんていうのは図書館がない町ですけども、そういった工夫を市民活動としてもやっているわけです。というふうな、そういうことも含めて文化的な側面というものをどういうふうにかませていくのかと、非常に大事な視点かと思えます。

あとは潤いとか、緑とのつながりというふうな憩いの場所というふうな意味もある。そういう意味での、とどまるっていうことをどう考えるかというの、大事なご指摘だったかと思えます。

それから、例えばそういう既存の施設をもっと子育てですとか、そういった福祉施設と融合させていくとか、何かそういうところから駅前のにぎわいというものをつくっていく、つまり商業施設だけがにぎわいをつくる手法ではないという意味でもっと福祉的なものを公益的施設誘導地区では、そういった融合的なコンセプトで一部計画は進められているということは伺っていますけれども、駅前とか、そういった都市拠点としても、もう少し改善をしていくことができるんじゃないかというふうなお話もありました。

これも、自治体によっては、駅に小規模ではあるけれども、預かり施設っていうものをつくるような、そういう工夫を施しているところもあって、要するに例えば子どもを預かるっていうのも1カ所そういう場所をつくれればいいということではなくて、もっと小規模なものが、逆に言うと網の目にちりばめられているっていうふうな、何かそういう預かり場所というものを充実させていくというふうな視点もまたありで、そういうことも、またにぎわいということにつながってくるんじゃないかというふうな視点もあり得るところですので、それをもう少し深掘りすることもできるかなと思えます。

それから、あとマルシェとのかかわりでも、もっとそういったものが商品開発につながっていてもいいんじゃないかというふうなお話もありましたけれども、別な施策としては起業支援ですとか、そういったことをやっていくと、でも起業支援と、マルシェと、にぎわいづくりって、どうつながっているのだろうかということも、またあまり見えてこないところであって、結局どの自治体もそれぞれがバランスで、起業支援なら起業支援でやっていますよ、にぎわいづくりは、にぎわいづくりでやっていますよというふうな、そういう繰り返し言われましたけれども、縦割りさっていうものが、いろいろな動きのつながりを遮断しちゃっているのです。その遮断しちゃっているということが、盛り上がりをつくるということに対しての歯止めになってしまっている。

これは市民活動も同じです。市民活動もその中でどういった可能性を持ち得るか、例えばこれ中長期的方向性に駅前等でのイベントの実施にあたっての市民団体等の自立を促していくっていう、これは行政の目線からすると、すごく後ろ向きです、この書き方っていうのは。自立を促すっていうのは、言い方を変えると、行政はこれ以上面倒を見ないので、どうぞ自由にやっていってくださいって言っているようなものです。私たちはそう受け取ります、この文面を。

でも、それじゃ育たないし、つながってこないの、市民活動をどうぞ皆さん頑張って
いってくださいじゃなくて、一定の補助金も出していきますよというところで終わってし
まうのではなくて、もっとそこが協働としての膨らみを持たせていく、あるいはもっと異
分野をつないでいくような市民の活力というものをもっと生かしていく、先ほども市民を
もっと活用すべきじゃないかというご指摘もありましたけれども、そういう意味での市民
力というものをもっと生かしていくという視点もあっていいのではないかとの意見もあつ
たかと思えます。

といったようなことが差し当たりのご提案として出たところかなというふうに思いますが、
このことはワークショップのほうにもそのままつないでいきますが、ぜひこういう提
案というものがもしありましたら、最後確認したいのですが、よろしいでしょうか。

それでは、この3-1の都市拠点がにぎわうまちづくりということについての評価、そ
れから改善に向けたご提案ということで確認については、以上とさせていただきますと思
います。

では、まず一旦ここで閉じさせていただきます、休憩に入りたいと思います。

一時閉会

【会長】

それでは午後の部を始めたいと思います。後半は二つ施策を予定しておりますけれども、
まず一つ目が2-3のみどりがつながるまちづくりということで、評価のほうを始めてい
きたと思います。

進め方は先ほどと基本的に同じような形で、まず各委員のほうから外部評価シートに基
づいて、この施策についての評価、それからその評価をするにあたっての理由、ポイント
等々についてお話をいただければと思います。これをまず一巡させていただきます、その上
で改善点について自由に意見を出し合うというふうな形で進めさせていきたいと思いま
す。

じゃあ委員のほうからお願いいたします。

【委員】

それでは取り組み状況につきましては、私はBとしました。先ほども言いましたけれど
も、期待を上回るという意味のBということにさせていただきます。読みますと、
なかなかいい感じでやっているなどは思っております。

ただ、その下のほうの市民ニーズに即した取り組みかということで、これは市民ニーズ
がどれだけあるのかが、ちょっとよくわからないというのがありますので、ここだけはC

としました。

それから、他分野や市民と必要な連携が図られているかにつきましては、これは、まあまあ図られているのだろうなという意味でBです。

成果につきましては、目標づくりに向けて成果が上がっているかということは、着々と進んでいるというふうには思いましたし、里山の用地買収についてはあまり進んでいないのではないのかな、カンナ街道はうまくいっているなという意味でBです。

進捗状況の評価について、やや遅れているという、確かに用地買収等、それからカンナ街道についても多少はやっているけれども目標にはちょっと足りないのではないかということで、やや遅れているという評価については、こんなものかなというふうに考えております。

それから、今後の課題、問題点ということで、市民の森ということが谷田・清戸市民の森ということなのですけれども、前回のときにも言いましたけれども、市民の森ということは果たしてみんなが認知しているのかと、神々廻の森というのは認知されているのでしょうかけれども、所沢の森、それから中木戸の森、実はこの会議が終わった後、先週の水曜日だったですか、2カ所とも回ってきました。だけど、どこにあるのかわからない、要するに看板がないのです。市の教育委員会が発行しておりますしろい散策マップの中に、確かに、ここら辺にあるよと書いてあるのですけれども、道路のところに行ったら、それがわからない。そういったものについてもう少しわかるようにしたらどうか、今回の谷田・清戸の森についても、どういうふうにできるのか、何かこれは県との関係もあるようですので、そこら辺をしっかりと捉えたほうがいいのではないかということを含めまして、今後の方向性もあわせてBとしております。

わかりやすさということについては、書き方はわかりやすく書いてありますし、総合的にはやや遅れているのでしようけれども、評価の仕方で大分下回るとはちょっとできないので、Bというふうな形にしております。

【会長】

ありがとうございました。では続けて、委員お願いします。

【委員】

ほぼBですが、成果のところでは目標実現に向けて成果は上がっているかについては、今のところC評価で、やや遅れているという進捗状況がありますし、まだ谷田・清戸市民の森も、まだこのままどういう方向にいくのかが不安定なところがありますのでCとしました。あとは、課題、方向性についてもBとしました。あとは、総合評価もBといたしました。

ただ、私も気になっているのが、市民の森って本当に整備されているのだろうかということで、全体でBですけれども、ちょっとCの要素も入れたBという判断です。

【委員】

総合評価のほうだけお伝えすると、BとCの間にある黒点のところに丸をつけたのですが、かなり外部要素が多いことですね、これは。

特に取り組み1のほうは、土地所有者の方との折衝というのもあって、それは市の方が幾ら頑張ってもそれで努力したって動くというようなことではないし、そもそもあの森の中にお墓とかもあつたりするので、この前を頑張ってほしくないというような方の意見もすごくよくわかるので、環境課の方は非常によくやっていたらしゃると私本当に思うのですが、やっぱりそういう要素があるのと、あと、緑のスペースが大きい割に、そこにかかわってくれている市民の方が少ないっていう、圧倒的にマンパワーが少ないので、成果として出にくいのだろうなということを思います。

それで、これ先週も申し上げたこととすごく重複してしまうのですが、緑の担い手ということをどうふやすのかという戦略が、やっぱりターゲティングが必要で、もう大人は捨てて、捨ててって変ですけども、子どもに予算も限られていると思う、子どもをとにかく10年育てるってするか、あるいは定年退職するぐらいの方をじわじわと引き込んでいって自治会とかとあわせて、65歳から75歳ぐらいまで頑張っていたくような設計にするのかというターゲティングをしないで、一般的な啓蒙と働きかけをしても、なかなか難しいのかなということを改善のところに書きました。

【会長】

改善については、後でまたいろいろ出していただければと思いますけれども、評価という部分で、まずは確認をさせていただければと思います。

【委員】

このみどりがつながるまちづくりという中で、神々廻の市民の森もそうですし、あと、ここに出ている谷田・清戸市民の森についても、資金が少なくて考えあぐねているところですよ。

私が今わかることは、今井の桜というところが一番記憶にあって、行くたびに何か残念な状況にあるから、そういうのもっと市民が集えるような場所にならないのかなっていうことと、自分が住んでいるところから船橋市民の森と、アンデルセン公園があり、高齢者っていうか、ただで入れるので、散歩コースになっているとか、そういうところには足が向くのですが、神々廻っていうのは、本当に最近中身を知ったっていうか、非常に生物とか野鳥とかすばらしい、そういった環境があるというのをよく知らなかったのです。だから、そういうものをもっと知らせてほしい、もっと身近なものだということに気づかせてくれるような、そういうところがあればなということで、ただ活動している方とか、市の方の熱心さで、頑張っているという点では評価はBとしたいなと思っています。以上です。

【会長】

お願いします。

【委員】

私の場合は先ほど言われたように、やっぱりBとCの間なのです。

やっぱり極端なのです、劣っていると優れているというの、だからこの間がないので私も点のところです。谷田・清戸の森の整備等は進んではいけないかなと。

だから、それと街路樹の老木になっているのは、あれの整備がまだ十分ではないのではないのかなと感じました。

それと、市民のニーズというところなのですけれども、みどりのネットワークの緑地化事業とか花植え、前回もお聞きしたのですけれども、まだまだ進められていないところがあるのかなと。カンナ通りなんかは予算が5万円ぐらいだったから、今から植えていかれるのかなと思うのですけれども、これはBでした。

この下は、これもBとCの間、各団体の横の連携が十分にとれていると思えないような気がしたので。というのは、それぞれの団体の目標に向かってるのは結構頑張っているのかなと思うのです。弁天池のところの花植えとか、そういうのをきちんとやっ
ていらっしゃるし、あと本当に横の連携をとれば、もっといい形ができるのではないかなと思いました。

その下の成果のほうは、取り組み状況から判断すると、成果は上がっているのかな、どうなのかな。これもBとCの間の点ぐらいかなと思っていますけれども。

課題、方向性なのですけれども、私が資料を読んだ限りでは、目標とポイントですね、要点、そういうところはちょっと私には見られないなと思って、着眼点はどこなのかなと行政が思っている方向性で、それとか今後の方向性等は妥当かと言われているけれども、これもやっぱりわからなくて、BとCの間の点のあたりです。

わかりやすさで言えば、広報紙はわかりやすく記載されているかなと思うのですけれども、ちょっとイラストなんかを入れたら、もうちょっとわかりやすいかなと思ったりするのがありました。全体的にはさっき言ったBとCの間です。

【会長】

ありがとうございます。お願いします。

【委員】

私の総合評価はCにしました。その理由としては、さっき委員もおっしゃっていたように、土地の買収が絡んでいるので、土地権利者との話し合いが遅れているというふうにはこちらの記載があったので、総合的にCにいたしました。

取り組み状況の中で、特に市民ニーズに即した取り組みになっているのかという点で、そこもCにしたのですが、保全を考えた場合に今使用している場所の整備だけではなくて、市民が安全と思える基盤整備が必要ではないかと思いましたので、取り組み状況についてはCというふうにいたしました。

また、成果のところ、目標実現に向けて成果は上がっているのかというところで、評価

のところで、やや遅れているということと、やはり土地買収のことがということがあるので、そこは済みません、Bにしました。現実的という意味で、やっていることがどうではなくて、買収が進んでいないということでBにしました。

1次評価の進捗状況等については、その状態をよくわかっていらっしゃると思ったのでB、今後の課題、方向性もB、市民にわかりやすい記載もBにしまして、総合評価をCといたしました。

【委員】

私は、総合評価はCにしました。項目が八つあるうちの、四つ、四つ、半々でBとCが分かれたのですけれども、その中でも、これは先ほどから皆様がおっしゃっているように、買収が進んでおらず交渉が中断している状況で、受け身的な印象は非常に強かったということで、成果の二つの項目は両方ともCをつけたのですが、成果が上がっていないというところ、受け身であるというところは、かなり重みが高いのかなと思ひまして、本当はBとCの間の黒丸につけようかと思ったのですが、あえてCという評価をさせていただきました。

あともう一つの理由としては、先ほど委員のほうから、ターゲットについてももう少し考えたほうがいいんじゃないかというお話があったのですけれども、私も同感で、ターゲットが果たして今やっているこれでいいのかなというところの見直しが必要になってくるのかなというところで、今後の方向性が妥当なのかどうなのかというところもCというふうにしております。特に取り組み1に関して、その問題が大きいように思いました。以上です。

【会長】

それでは、私のほうからも、総合評価ということであると、私もC評価にいたしました。ポイントとしては、確かに所有者との協議のおくれといった皆さんがご指摘されているようなことはあって、これは直接的な責任がその担当部署にあるというわけではないということもありますので、これ自体が評価の大きなウェイトを占めているわけでは私の場合はあまりなくて、むしろポイントとしては、施策名が、みどりがつながるまちづくりで、うたわれているのですが、つながるといことがこの取り組みの中でやっぱりあまり見えてこないというのが、C評価にした主な理由です。

それは取り組み状況としても、みどりのネットワークづくりに対する支援というふうなことはあるにしても、こうした植栽活動がこのつなぐということの中心的な意味合いなのか、もっといろいろ検討はされているとは思いますが、具体的な施策としてつなぐと、先週もこのことは話題にはなりましたが、要するに自然豊かな白井と、それから市街地、ここをいろいろな側面からつないでいくのだと、それが一つの方向性なのだ、一つの価値が見出される場所なのだ、あるいは表現していくことなのだというふうなことは前回も確認はさせていただいたところですが、いずれにしても、そうい

うことを念頭に置きながら、つなぎってというふうなことが、取り組みとしてどこまでなされているのかという部分が、非常に今の取り組み状況としては弱いのではないかと、そういう意味でC評価にしております。

それから、成果についても、土地買収交渉等々の問題もさることながら、やはりこのつなぎという部分での成果というふうには必ずしもなり得ていないということ、そして今後の方向性というところですけども、さまざまな場をつくっていくとか、里山を活用していくとか、ウォーキング散策、そういう癒やしの空間というものをつくり出していくという緩やかな方向性を示されているわけですけども、この中長期的な方向性の中にも、このつなぎイメージというのはあらわれていないというところも非常に気になる点ですので、個人的にはそういった評価をしております。

そのことを踏まえた上で、残りの時間で、少し改善点について皆さんから伺えればと思います。既に、例えばターゲティングということを明確にさせながらというお話もありましたけれども、そのことも含めてこういった改善点があり得るんじゃないかということで、ご指摘をいただければと思います。

【委員】

谷田・清戸の市民の森、先ほどから土地買収っていう話になっていきますけれども、あそこは買収するのですか。市民の森というのは、大体借地という形になってくるのですけれども、これ何か買収、買収とさっきからおっしゃっているけれども、買収するのですか。

【環境課長】

基本的には、各地権者さんのご意向によって、買収の場合もあれば、借地の場合もあるというようなことで考えています。

【委員】

虫食い状態になるわけですね。

【環境課長】

基本的には、全部買い取って、がつつりまとめて一団の森をつくるというのが理想なのですが、やはり各地権者の思いというものがあまして、これは過去いろいろと交渉を重ねてきた中でいろいろな思いがあるものですから、そこは絶対反対という人もいれば、協力してやるよと言っている方もいらっしゃる一方で、虫食いになっても最後はしょうがないということで、現在のところは判断をしています。

【委員】

これは何か県の事業とも絡んでいるんじゃないかなかったですか。

【環境課長】

実は、大もとが、北総里山会議といったようなものがあまして、そちらの中で検討されてスタートしているというのが大もとにはあります。ただ、実は、その中の検討のときにいろいろ問題がございまして、地元が不在のまま、いろいろと絵が描かれてしまって、

それで空中分解してしまったということが過去にございました。それを修復しながらやってきたというのが今の状況になります。

【会長】

どうでしょうか、改善点について、ぜひご発言があればと思いますが。

【委員】

市民団体と協働というときに興味を持ってもらえる市民というのをどうつくっていくかという戦略、ターゲットिंगみたいなことをどう考えられているのかなという点と、あとはかなり個人的な意見なのかもしれないのですけれども、この森、谷田・清戸の市民の森をというのをつくるのであれば、先週もお話ししたのですけれども、今ある市民団体だけでは足りないというか、結局世代交代というか、次世代の組織をつくるということを前提にしてやるほうが、新しい風が吹くのかなと思うのですけれども、本当に小学生、中学生、高校生あたりからご高齢の方まで、参加できないのかなと勝手に思ったのですけれども。

【環境課長】

どういう人材育成をするかと、そういう戦略ということですが、前回も申し上げましたけれども、やはり小さいうちからそういう興味、関心を持ってもらって、それが大人になってきたときに、そこに白井にいれば参加する、あるいはそれがあるので白井に戻ってこよう、そういうところにつなげていきたいなというふうに思っております。

ですから、今こういう環境学習的なもので、小学生を対象に学校の教育課程の中でやっていくということは始めていますし、実はもっと下がって、例えば幼稚園とか保育園の小さなお子さん、こういうところもそういうところに興味、関心を持ってもらう、一番、親子で参加してできるようなものがあるといいと思っています。

実は、市内にあります幼稚園と、実際、西白井にあります木戸前川防災調節池という池がありまして、こちらが二段構造になっていまして、水がたまっている部分と広場になっている部分で、広場になっている部分は県から土地を借りまして、市のほうで一応公園の扱いで管理をしております。そこを活用してビオトープをつくって、そこがどういうふうに変化していくかというのを調査、研究しようということで、今話が進んでおりまして、今年9月ぐらいにはそれが実現できるかなと思っています。

そういう小さなお子さんから始めて小学校で、ちょっと抜けているのが中学校なのですけれども、その部分をこれから一応計画の中では、小中学校でそういったような環境学習的なものも展開をしていくという取り組みを続けていますので、考えていきたいなと。

そういうのを踏まえて、前回も言いましたけれども、教育10年ということで育成するのが1点と、もう一つは市民大学校というものが展開をされております。神々廻市民の森のところで、そちらのOBの卒業生の方が学習の成果を生かして活動を始めていますので、そういったような団体さん、これからもアプローチをかけて、もう少しこっちのほうに引

きずり込みたいというふうに思っています。

やはり、時間のある高齢者の方と未来を担う若いお子さんたち、この両方をやっついていかないと厳しいのかなというのが今思っていることです。それをこれから戦略的にどう展開していくかというのは、なかなか難しい部分もありますので、いろいろ何かあればアドバイスをいただければ反映させていきたいなというふうに思っております。

【委員】

自治会とかとも提携っていうのを考えられるじゃないですか。

自治会って結構お掃除とかするので、それを遠征してもらおうという、森の掃除をやってもらうといいのかなと。

【環境課長】

実は、この計画の中に位置づけておりますけれども、まちづくり協議会というものをこれから立ち上げていこうという中で、こういう地域環境とか、そのまちづくり協議会をやっていく上でのテーマの一つとしてできないかということで、設立にあたってはこちらからも積極的にアプローチをかけてやっていきたいというふうに思っています。

ただ、実際には市民活動支援課というところが所管しておりますで、そこが音頭をとっていろいろやっておりますので、そちらとも連携をとりながら必要に応じて入り込んでいきたいと考えております。

【委員】

定量的評価で、自然、白井の緑の環境を自慢に思う市民の割合というものは、29年度は77.8%で、目標値をかなり上回ってきて、やっぱり緑があふれている、白井は緑の町なのだというのを思ってきているというのは、すごく多くなってきたというのはわかるのですけれども、じゃあ身近にといったときに、これは28年度から6ポイント近く下がっているのですけれども、これの影響というのか、それが市民ニーズに即しているかというのは、皆さんあんまりいい評価じゃなかったと思うのですけれども、こういったところも、何で下がったかというのは把握されていますか。把握はできないか。

【環境課長】

基本的には、その辺の分析、どうやって評価したらいいのかと、ちょっと悩みのあるところでして、実際にはなぜ下がったか、サンプリング段階での課題もあるでしょうし、実際にどうだったというのは、継続的に同じ方で調査をかけていけば、多分違ってくると思うのですけれども、その都度の抽出になりますので、正直申し上げてわからないというのが今の状況でございます。

【委員】

結局そういう場所はあるのだろうけれども、どこにあるのか、私が言ったことを自分でカバーするわけではないのですけれども、ある場所がわからないと。例えば県民の森、それからアンデルセン公園というのは、みんなが知っていますよね。だけど、白井市民なの

に、市民の森っていうのを実はよく知らない。

やっぱりきれいだなと思うけれども、そういう場所があるということを知らないから、お気に入りの場所があるというのがないと思うのです。だけど、そこをもっと、こういう場所がありますよということをきちんと看板でも立てておけば、こういうものにもちゃんとコースで指定されていますから、みんな歩いて健康になって、保険、お金がかからずに済むと、健康にもいいのではないかと思うので、そこはぜひ考えていただきたいと思えますし、そうすると割合も上がってくるんじゃないかと思うのですけれども。

【委員】

ちょうどこの定量的評価については、私も触れようと思っていたのですけれども、これまだ2カ年分の結果しか出ていないので、最低でも3年データが出ないうちは、アップダウンはあまり気にしないほうがいいんじゃないかなと思います。というのが一つ。

とすると、おそらくサンプリングの問題ということで今ご指摘をいただきましたが、例えば身近に自然を感じるお気に入りの場所は、あるかどうかというところって、結局地域性によるのかなと思うので、地域別のクロス集計ができるのであれば、そういったところをまず分析していただいて、この地域にはあんまり確かに緑がないなとか、そういうものがおそらく出てくると思うので、全体的に上げるというのであれば、そういう分析の仕方もありかなと思いました。

多分、最近、緑がない地域に、住民人口がふえているんじゃないかなというような印象もあるのです。駅前とか全然ないので、ですからそういう影響もすごく大きいのかなというふうにも思っています。以上です。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。改善点のここに注目すべきじゃないかと。

【委員】

これもまた抽象的な話をしてしまうかもしれないのですけれども、保全と活用ってやっぱり違って、保全するだけだったら割とそんなにおもしろくない作業が多いのかな、お掃除とか、そこを超えて楽しむ、それを使って楽しいってことを子どもたちは割と子どもへの企画って立てやすいと思うのですけれども、大人の方が、単なる真面目じゃなくて、そこにかかわることがわくわくするなと思えるような仕掛けがもうちょっとあると、裾野が広がるのかなっていうのを私も実際かかわっていて思うのですけれども、みどりがつながるっていうより、みどりにつなげるまちづくりっていうふうになるといいなと思っています。そのあたりどういう感じにお考えなのかなと思います。

【環境課長】

お子さん向けの企画というのは、今小学校のほうでもやっていますし、もう少しそれをバージョンアップして、今はまだ2校しかやっていないのですけれども、これを市内全域の学校に広めていけるようにしたいと。

ただ、さっき地域性というお話も出ましたけれども、地域によってこういうフィールドの近いところと全くないところと分かれておりますので、その兼ね合いでどうするのかなというのがあります。

みどりがつながるじゃなくて、みどりにつなげるというのは大変いい発想だと思いで、私もこれをいただければいいなというふうに。

【委員】

いただいでください。みどりにつなげるまちっていう、みどりっていうのを媒介にして人がつながっていくっていうのが、多分白井はできると思います。

【環境課長】

白井の特性というの、みどりということによく言われておりますので、それを地域の資源として活用して、魅力アップにつなげるということが、これから必要になってくるだろうというふうに考えております。

【委員】

大人の人は、どうしたらそれがわかるのか、私もなかなか友達を誘っても、行かないよって、無理でしょうか。

【環境課長】

大人は、趣味趣向がもう既に固まっておりますので、そこを引っ張り出すにはどうしたらいいかというのは非常に難しいのだそうです。

あとは、集まったら、そこでバーベキューをやるとか、何かできたらいいとかというのがあるかと思いで。仕掛けはいろいろ考えればアイデアは出てくると思いですけれども、ただ、それをやることによって、保全ができなくなっちゃうというのがありますので、ちょっとその辺はいろいろな意見をいただきながら、また考えていきたいと。

【委員】

私も、ちょうど緑でつなげるのだろうなというのをご提案しようと思いでいたのですけれども、午前中の都市計画の拠点づくり、にぎわいの拠点づくりの話をしていたときも、やっぱりみどりって出てくるのですね、駅前とか。そう考えると、多分前回のお話でも、環境課と都市計画部門、あるいは道路のところがつながっているということはわかったのですけれども、多分都市計画の部門の別の係の方たちと、もっとつながったほうがいいのかなって思ったのです。その人の部分とか、にぎわいとかというような庁舎内でのつながりも、ぜひ高めたらいいいんじゃないかなというふうに思いでました。

おそらく、白井って商業がどうのこうのとかっていうことよりも、やはりみどりというの、いろいろな施策のコンセプトの中心にくるのだろうなというのを何年かかかわってきて本当に実感しているところなので、できるだけいろいろな弊害はあると思いですけれども、いろいろな課の係のレベルでつながっていったらいいのかなと思いでました。以上です。

【会長】

「みどりを」というより、「みどりで」という視点で。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。

【委員】

カンナ街道に行くには、どうやって行けばいいのだろう。循環バスで行けばいいのですか。

【環境課長】

基本的には循環バスで、たしかコースには入っています。ただ、途中でとまらないので、車窓から風景を楽しんでいただく。

【委員】

自由に乗りおりできる場所じゃなかった。

【都市計画課長】

北コースというのがあるのですけれども、自由乗降区間です。ただ、すごく本数が少ないので、1回おりちゃうと、しばらく来ません。

【委員】

よくあそこに史跡みたいなのがあるのですけれども、本当に寂れたようなの。あれは何かですか。

【環境課長】

今井の水塚と言いまして、昔、治水が完全でなかったのも、よく氾濫を起こして、いっぱいになっちゃった。なので、今井地区には全て船が軒先に下げてあって、いざ洪水のときに避難するように、水塚というものを各家に置いてあって、それが今、市の文化財か何かで保護されて。

【委員】

何かすごく寂れたような感じで、何でだろうと。

【環境課長】

水塚そのものは寂れてはいないです。まだ、各個人個人のお宅で管理していますので。

【委員】

いずれはカンナ通りも、ずっとカンナが。

【環境課長】

あそこは一面にする予定でございます。

【会長】

改善点で、ほかにももしございましたら、こういう視点を考えておくべきだということがありましたら、ぜひ。

では、私のほうから、一つは前回、先週のみどり関連の施策のところでも申し上げたこ

となのですけれども、特に環境教育といったときに、それぞれの立ち位置によって白井における自然というものの意味が違いうだろうということは、申し上げました。

つまりほかから移り住んでこられた方々にとっての白井の自然と、白井で生まれ育った方々にとっての白井の自然というのは意味が違うわけで、それぞれの視点というものからの価値というものを育ていけるような、そういう環境教育が必要だっというようなことは先週申し上げたのですけれども、その話というのは、今日の、つなぐというようなところにもかかわってくるのかなというふうに思います。

先ほどから、ターゲットを明確にさせるというのも、それにかかわってくるわけで、世代としてのターゲットということもあれば、今申し上げたように、それぞれ自分にとっての白井の自然ってどんなものなのかっていうことが、もっと意識されるというか育まれていくような裾野というのももう少し開いていってもいいのかなというふうには思います。自然があるのが当たり前だというふうに思っている方々と、また別な方々からすれば、それが今非常に失われているのだというふうな危機意識から捉えられるべきだと、それからほかから移り住んできた人が、ああ自然が豊かだねっていうふうな見方もあれば、僕もかつて白井に越してきたときには、白井は自然豊かだねっていうふうにあんまり思わなかったのです。僕は日光の麓で育ちましたので、もっと山があったのです。

だけど、白井のおもしろさっていうのは、当時ニュータウン開発の真ただ中でしたから、都市部的要素と、これだけの自然と両方あるっていうのが白井のおもしろいところであり、そういう視点からの緑の価値、評価というものが有り得るのかなというのが、子どもながらに思っていた一つの視点でもあるのですけれども、だからこのつなぐっていうのも、そういう意味で、僕は「みどりでつなぐ」のもいいのだけれども、「みどりをつなぐ」っていうのも、ありかなというふうに思っていて、そういうもともとある自然というのと、こういうニュータウン開発をしてきた地域、そこにおける緑というのは、じゃあどういふものがあり得るのか、両者がまたつながれるということで、どんなことができるのか、そこが広がっていくと、これはほかとは違う白井ならではの緑の政策ということにもなっていくのかなというふうにも思いますので、そこはもっと深掘りしていってもいいのかなというふうには思います。

それから、つなぎっていうこと、これは「みどりを」でも、「みどりで」でも、どっちでもいいと、両方含まれると思うのですけれども、前に私が質問させていただいたとき、緑の連鎖とか、みどりをつなぐっていうふうなことで、回答としては、緑の連鎖のコンセプトは、森や河川で市街地の外側に広がる緑と、市街地内の緑地や樹木がつながる状態がある、市街地の外側は農地、里山、河川がある、市街地内には公園、緑道、緑地などがあるという、どちらかという物理的空間としての緑のつながりということが念頭に置かれている。

だけれども、先ほどからおっしゃったように、もっと分野を超えていくというふうなこ

ともあって、先ほども駅前のにぎわいっていう、その中で緑という要素をどういうふうにかけるのか、それが要するににぎわいの中で問われる、そこにとどまるという、そういう人々がとどまるということと、緑ということが、どんなふうに白井の中ではつながっているのかなんていうふうに考えていくと、それはまさに、にぎわいづくりの取り組みと、この緑といった取り組みがまさにつながってくるというふうなことで、同じように考えていけば、前は教育と緑のつながりということによってやってわけです。でも、それ以外にも、例えば福祉と緑のつながりであるとか、産業と緑のつながりであるとか、そういうふうな広がりもあり得るのかなというふうにも思うのですけれども。課長、この辺はあまり深掘りされていない感じですか。

【環境課長】

実は、この辺、前回はご提案いただいていますし、少し検討はあったのですけれども、現在、大学の先生ともいろいろな形でお話し合いとかさせていただいて、その中で、こういったものも研究対象としてやってみたらというようなこともおっしゃっていますので、連携しながらそういう部分も考えていきたいというふうに思っています。

【会長】

大体よろしいでしょうか。以上、評価とそれから改善点について、改めて確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、まず評価については、なかなか悩ましくて、BとCの間という人が非常に多いので、Bがお二人、Cが二人、BとCの間という人が3人という感じなので、本当に半々という状況ではあるのですけれども、どうでしょうか。

気持ちCというふうな方もいらっしゃったので、だけれども、基本Bで少しCに近いというような感じの方もいらっしゃったので、ニュアンスを酌み取るとB評価で、少しCに近いですよというふうなところが、全体のひとつの評価、落とすところかなというふうに思いますが、この総合評価についてご意見ございますか。評価としてはB評価にして、または内容、理由のところの問題点を少し指摘させていただくということで、ややCに近いBというふうなことで最終的には記述できればと思うのですけれども。

一応、評価内容、評価理由としては、一つはそういう所有者との交渉については、非常に外部要素としての側面が強いので、なかなか前に進んでいかないというふうなところのそういう難しさは一方であると、それを成果という点からすれば、少し遅いという点での少し厳し目の評価ということもあり得ると。

それから、特に市民の森の整備といっても、何をもちどこまでをもち整備というふうにかえるのかどうかということが少しわからないというところと、それを市民ニーズということが、どこまで合致しているのかどうかということのわかりづらさというものも、あるのかどうかということ、あるいは、市民の森として、市民の方々が共有していく、あるいはそれを活用していくといっても、どこにどういったものがあるのかということ、ちょっとわかりづらいという、要するに市民の森だから、当然市民のものであるはずなの

だけれども、なかなかそういった誘いって言うものが、十分な形ではないんじゃないかといった指摘ですとか、あるいはこの市民の森というのをどういう方向に導いていくのかっていう、その方向性という点でも少しまだ曖昧な部分があるのではないかと、あるいは、つなぎといっても、何をもってのつなぎなのかということがちょっと弱いのではないかといったようなことが、やや厳し目の評価としては出されたところかと思えます。

基本、おおむね皆さん、ある程度この事業内容で少しずつ前進しているなということでは、評価はいただいているところかと思えますけれども、より今後に向けた歩みということで今ご指摘いただいたようなことがあって、少し改善の余地があるんじゃないかというふうな評価かなというふうに思います。それを踏まえて一応B評価というふうな形にさせていただきたいと思えます。

また、改善点についてですけれども、これもいろいろ検討すべき項目についてはご指摘をいただいている、一つは先ほど出ましたターゲットというものをより鮮明にしながら、それは世代という意味でのターゲットということもありますし、それから緑というものが、その方、その方の立ち位置とか履歴によって変わってくる部分もあるという、その辺も踏まえて少しどういう方々に、どういうふうな働きかけをしていくのか、あるいはどういう協力を求めていくのかということをもっと整理して、明確にして、ターゲットごとにある程度取り組み内容というものを見出していくということをししないと、いけないんじゃないかというふうなご指摘。

それから、それにあわせて市民ニーズというの、どういうところに、どういったものがあるかということをもっと分析していく必要があるということですね。また、そういう市民ニーズに応じていくために、市民としてはどんなことができるのか、あるいは市民にとってどんな表示とか、どんな内容というものが必要なのか、いずれにしても市民の方々をいざなっていくような、そういう言い換えれば主体的にかかわっていくことができるような、何かそういう裾野をもっと開いていくべきだというふうなご指摘もあったかと思えます。

それから、つなぐということイメージして、一つは、みどりでつなぐというふうな視点で、さまざまな人たちのさまざまな立場、さまざまな世代、さまざまな分野をつなぐというふうなところ、それから言い換えれば、緑というものをもっといろいろな分野で捉えていくようにする、福祉における緑とはどういうことなのか、子育てにおける緑とはどういう可能性を持っているのか、そこを意識的にやっていかないと、結局、緑は緑でやっていることなのでしょうということで終わっちゃっているのがほとんどなわけですね、どの自治体でも。白井の場合は、一応この緑というのは重点施策の柱に上がっていると、重点施策の柱に上がっているということが、どういうことなのかということを押さえるということも大事なところにはなってくるのかなというふうには思いますが。

といったようなことで、いろいろご指摘いただきましたので、その辺については、また

ワークショップのほうで深掘りさせていただければというふうに思います。

ということで、ちょうど時間になりましたので、まず2-3のみどりがつながるまちづくりということについての評価は以上ということにさせていただいて、この後、一旦休憩を挟んで、また次のほうにいきたいと思います。

一時閉会

【会長】

それでは、最後になりますけれども、3-3拠点がつながるまちづくりということで、評価のほうを始めていきたいと思います。進め方はこれまでと同じように、まず各委員のほうから、この施策についての評価を伺いながら、一通り皆さんのご意見を聞いて、その後、また改善すべき項目、あるいは視点について、自由に提起するという進めさせていただきたいと思います。

ただ、この3-3については、人をつなぐ、道路でつなぐとか、交通ということで、つなぐというキーワードがあるのですけれども、やや評価する側からするとしづらいところがあるかもしれませんが、それは込みで評価のほうをお願いできればと思います。

それでは、委員からお願いします。

【委員】

コーディネーターの発掘ということについてみますと、目標実現に資する取り組みということは、考え方としてはすごくわかっているのですけれども、前回何かのときにもありましたけれども、コーディネーター数が29年度もゼロということで、果たして本当にそこまでいけるのかというのが何らかの質問項目にもあったと思います。そういった意味では、Cの上の0.5ぐらいでもいいのですけれども、ないので、Cとしてもいいのかと思いつつも、一応Bとしておきました。

市民ニーズに即した取り組みとなっているかということで、1番はわかるのですけれども、さっき会長からもお話がありました、1と2の関係がよくわからないのです。つなぐだけで、一つに取りまとめていいのかなと思います。

それから、他の分野や市民等と必要な連携が図られているか、コーディネーターについては、それぞれいろいろ活躍されまして、何かやろうとされているというのとはすごくわかりますし、評価としましても、改善して継続ということになっているので、頑張っていたきたいと思います。

それから拠点と都市拠点と各地域をむすぶ道路ネットワークの整備というのは、前回も、工業団地のバイパス道路を拡幅することについては、一生懸命頑張っていらっしゃるので、そこら辺はいいのかなと思っています。

成果については、2番は順調、道路の拡幅については順調だと思います。1番と3番、

3番の利便性のよい交通ネットワークの確保、これもここには北総線の今年か書いてありませんけれども、地域公共交通、何でしたか、何か会議がありますけれども、そちらのほうの委員に私はなっております、とりあえず計画はまとまっております。その計画をもとにして、これから新しい事業が始まっていくのだと思いますので、その期待値も含めまして、まあまあBというふうにしております。

課題としましても、今後、利便性のいい交通ネットワークにつきましては、去年の9月、10月だったですか、ナッシー号のバスの時刻表の改正等がありまして、非常に不便に感じられているところもあります。そこら辺を改めて、結節点での乗りかえがうまくできるような形で何かできれば、利便性も向上するのではないかと思います。それにつきましても、今後の検討課題ということになっておりますので、方向性としては、そういった形でうまくいけるのではないかと、わかりやすさにつきましては、書いてあることを読んでいけばわかるという言い方がわかりやすいのではないかと思います。

施策の総合評価は、進捗状況ということでおおむね順調というふうに書いてありますけれども、まあまあおおむね順調であろうなということで、私もそのように感じております。以上です。

【会長】

続いてお願いします。

【委員】

取り組み1については、コーディネーターの発掘について、まだ十分ではありませんけれども、養成講座を受けられたりして、市役所の職員が利用するなど、そういう方向性、視点の正しさは評価できると思いますので、この取り組み1については、私はB評価。

それから、取り組み2についても、先に進めていただきたいということでB評価ですが、取り組み3については、私は厳しい評価をしたいと思います。

利便性のよい交通ネットワークの確保ということで、まず北総線の運賃値下げを実現できるように云々と書いてありますけれども、実際に白井市として、そういう値下げへの運動がよく見えません。もう少しその辺は取り組んでいただきたいというのが一つ。

もう一つは、これは地域エゴと言われるかもしれませんが、七次台地区は、この間のナッシー号の路線変更によって、相当高齢者が困っております。乗りかえなきゃ鎌ヶ谷総合病院に行けなくなりましたので、これは高齢化社会に逆行するようなダイヤ編成だなと思っております、その点が非常に不満なので、ネットワークの取り組み3については、C評価をいたします。

全体として、取り組み状況、成果、課題、方向性、わかりやすさという4項目で、取り組み状況は、おおむねBといたします。成果は両方ともCとします。

それから課題・方向性も私にとっては、この課題が解決されておられませんので、方向性も妥当と思わないので、取り組み3については大いに不満が残りますので、これもCにい

たします。

わかりやすさはBです。B項目とC項目が2対2ですけれども、総合評価はCといたします。

【会長】

全体としてはCという評価で、わかりました。

委員、お願いします。

【委員】

私も、この1、2、3というところのこの評価が難しいのは、ソフトの話とハードの話が1個のところを書いてあるのですけれども、どう考えてもあんまり関連が見えてこないというところで、このまとめ方が正しいのかというのが、一番疑問に思うところではあります。

それで取り組み1については、ご努力をされているとは思いますが、今回3年目でコーディネーター数が今年度どう動くかわからないのですけれども、まだゼロっているのはどうなのかなと思うところがあり、コーディネート型職員育成研修をしたのであれば、その研修を受けた方々はもっと地域に出ていって発掘するなんていうことが、割と早急に行われないと、どの施策にもかかわる市民参加というところが全く動いていかないと、この動きと、まちづくり協議会、関係があると思うので、ここは全体として進捗はCなのかなと。

取り組み2のところは、インフラのことなので、我々にできることは少ないので、ここはよくわからないということもあり、読む限り、取り組まれているのだなというのがわかるのでB。

取り組み3については、私自身はナッシー号とか使っていないので、よくわかりはしないのですけれども、使おうとしたときに不便だろうなという時刻表のあり方ではあるので、BとCの間なのかなというところで、総合評価がCに近いB、あるいはBとCの間の点にして、総合的な理由がソフト面というのは遅れているし、今ハードな交通機関というものの市民ニーズというのを確認した上で、いろいろもうちょっとやっつけていかないと、だめなのかなというふうに思いますので、そのような評価にいたしました。以上です。

【委員】

公共交通機関のナッシー号について、委員さんもお話しされていましたが、現在よりも5年後とか10年後を見据えていくと、そういう施策を考えてほしいということと、民間の場合は、客が減ったら廃止になってしまう可能性もありますし、病院へのルートを確保することって、七次台の人が困っているということもありますし、空気を運んで高い経費を使っているかもしれないけれども、市は企業じゃないのだから、市民のためということをまず一番に考えてほしいなと思いました。

総合評価としてはCかなというふうに思っています。

【会長】

委員、お願いします。

【委員】

取り組み状況なのですからけれども、目標の実現する取り組みになっているかというところなのですからけれども、今言った道路整備と公共交通の見直しが起こる原因ではないかなと思う。というのは、私も感じていることなのですからけれども、市民の声を反映されているのかと、民間、道路、バスとコミュニティバスの分担の話し合いはどうなのかなと、これはCです、私。

市民ニーズに即した取り組みになっているかというのはC。というのは、市民生活に密着した課題である、この内容が、取り組みの展開が少し遅れているのではないかなと。

他分野の必要な連携が図られているかというのは、十分に図られていないように私は思います。というのは、西白井方面から新鎌ヶ谷方面の路線バスですね、それがまた民間のバスを利用するとすごく高いし、やっぱりナッシー号のようにしてほしいと。

とにかく結局皆さん大体、東京方面、都心方面へ行かれますよね。そうすると鎌ヶ谷方面がなくなったというのは、これはものすごく不便なことなのです。これは議会のほうでも取り上げていらっしゃったみたいですからけれども、それはCです。

それで成果のほうなのですからけれども、道路問題、交通ネットワークが特に市民に障がいが出てきているんじゃないかと私は感じていますので、これもCです。

第1次評価のほうは、文言では、推進の状況がとっても見られるのですからけれども、現状はどうなっているのかなとちょっと感じましたので、ですからけれども、これはBです。

今後の課題なのですが、問題点で的確に捉えられているか、これは道路整備の促進、さつきから出ていますけれども、ナッシー号のルート改善と、北総線の運賃の値下げに関してのこと、これも私はBにしました。

今後の方向性は妥当かと、これは上記の問題と同じなのですからけれども、改善の必要性があると私は考えていますので、これもCにさせていただきました。

市民にわかりやすい記載となっているかというので、私はBにしたのですからけれども、広報紙は読みやすくなったが、ホームページは誰が見ても見やすいようにしてほしいと、パソコンが使えない方も結構いらっしゃるのですね。障がい者の人は、どちらかというところスマホとか、そういうものは得意としていますが、言葉がしゃべれなかったりするから逆に使っていらっしゃるのですからけれども、一般の方はそうでもない、特に高齢の方はという意見がすごくあったので、私の評価としてはBなのです。

総合評価はCです。市民の重点施策にもかかわらず、事業計画はちょっと乏しいのではないかなと感じたものですから、以上です。

【会長】

ありがとうございます。

委員、お願いします。

【委員】

取り組み状況としては、目標実現に資する取り組みについてはBとしたのですが、市民のニーズに即した取り組みというのと、他分野と市民との必要な連携というところはCにいたしました。

例えば、公共交通網にしても、白井市内だけで考えるのではなく、船橋や鎌ヶ谷に隣接しているので、その辺とのバスの経路のやり方であったり、先ほど委員がおっしゃったように、病院へのツールであったり、市民が使うツールを考えた上での取り組みにあまりなっていないんじゃないかというふうに考えたので、Cにいたしました。

あとは、どちらかというところとシェアする発想というのが、とても低い気がするので、そこで他分野と市民との必要な連携というところもCにさせていただきました。

成果に関しましてはあまりシェアの感覚もなかったですのでCということと、第1次評価につきましては、おおむね順調と書いてあるのですが、順調というふうには思わなかったため、Cにいたしました。

課題のところについては、北総線の運賃に対する不満が多いというのは多いのでしょうけれども、これは解決が無理だとするのならば、逆に違う方策を考えるとか、かじ取りを別にしていかなければいけないというふうに考えまして、北総線の運賃の値下げっていうのは難しい問題じゃないかとも思いまして、これに関してはCで、わかりやすさはBで、総合評価をCといたしました。

交通網の路線のニーズが市内だけに及ばず、この隣接した船橋、鎌ヶ谷、ニュータウン等と中継ぎもできるものになれば、少しほかの市町村とも連携したやり方ができるのではないかっていうのを思いますし、また北総線の運賃にこだわるのか、こだわらないのかをはっきりさせた上で、交通網をどうしていくのか、はっきりとしたまちのビジョンを出すべきではないかと考えました。以上です。

【会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

私は、総合評価はBにしました。その中で気になっている点は、わかりやすさのところですか。C評価にしたのですが、ここのC評価にした理由は二つあります。

まず一つ目は、取り組みが三つある中で、取り組みの2が、金額が桁違いで非常に大きな道路のことが入っているところになるわけですが、すごく金額が大きい割には取り組み内容がすごくざっくりとしていて、なおかついろいろな取り組みが入っている、あとは表現もほかの取り組みと違って、すごく抽象的でした。そういった抽象的な表現が、市民にとってちょっとわかりづらい記載になっているなと感じました。

それから、もう一つは、わかりやすさがCだった理由ですけれども、先ほどから2人の委員から、コーディネーター事業の成果がずっとゼロだっていうようなご指摘があったわけですけれども、これはたしか以前の勉強会の際に、1年、2年でそういった人材は育成しきれず、3年、4年、5年計画ぐらいで出てくるというようなご説明があったと思うので、今の段階ではゼロで仕方ないのだろうなと思うのですけれども。

それゆえにいわゆる見せ方の工夫だと思うのですけれども、どのぐらいそういった事業を受講した人がいるのかとか、いわゆるインプット、アウトプットの部分をもう少し詳しく取り組み状況のほうで見せていただくと、おそらく、ゼロだけこういうふう施策が進んでいるんだなというところがわかってくると思いますので、そういったところの工夫をもう少しご検討いただけたらいいのかなと思いました。

そして、なおかつ、このコーディネーター事業については、以前も指摘をさせていただいたのですけれども、今、委員からも話がありましたように、こういった人材育成って、ほかの部署でもたくさん環境課も含めてやっていると思うのです。ですから、そういった人を育てるといったところの事業をもう少し集約して、連携して全体的に見せていくっていう工夫もご検討いただけるといいのかなと思いました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。最後、私のほうからですけれども、やはりBとCの間かなというのがあります。ちょっと決めかねているところもあるのですけれども、一応最終の評価としてC評価にしています。

このコーディネーターの発掘、育成については、今多くの委員の方々からご指摘があったように、なかなかふえていっていないというところが、これは人材育成ということもあって、時間をかけながらやっていくしかないというところがあるかと思いますので、これ自体、結論というものを早計にすべきではないと思いますので、その辺は少し長い目で見ていく必要があるかなというふうに思います。

ただ、コーディネーターというものをどういうふう育てていくのか、職員としてのコーディネート、それから市民がなし得るコーディネートというのがいろいろあり得るところで、この辺もどう課題に即して踏み込んだ人材育成というものができるかどうかというのが、問われてくると思います。

個人的な見方からすると、見方というか着眼点ですけれども、役所内をつなぐっていう視点と、それから市民を相互につなぐという視点と、市民と役所をつなぐっていう視点があると思うのですけれども、今の白井はどこが強いのか、弱いのかというふうなことは、少し踏み込んだ検証というものが必要なかなというふうには思います。特に協働という点からすると、市民と行政との間というものをどういうふうにつないでいくのかということが、どの自治体でも悩ましい課題にはなっているところですが、この間をつなぐ人材育成というものが、今後どういうふう切り開かれていくのかという点は、課題にはなっ

くるところかなというふうには思います。

それから道路については、これは将来の優先順位のつけ方等々もあって、段階的に整理しているものですので、これだけの特出して評価するというのはなかなかしづらいところもあります。これは今、委員もおっしゃったように、どういうふうに道路事業というものを見せていくのか、説明していくのかというところは、市民にとっては非常に大事な側面になってくるかと思しますので、見せ方、説明の仕方という部分で一定の改善の必要があるんじゃないかというふうに改めて思います。

それから、利便性のよい交通ネットワークの確保ということで、いつも北総線問題が出てきますけれども、これ北総線問題自体どうしていくのかということもさることながら、やはり公共交通全体をどういうふうに捉え、それぞれが歩みを進めていくのかということは、少し思い切った方向性が必要性なんじゃないかなというふうには思います。もちろん、先ほどから出ているように、バスの交通網、これも地域によってさまざまな問題がある、出てきている部分ですとか、あるいは広域的な流れの中での位置づけ方というものも必ずしも十分にできていないと。

つまり白井のどういうところから、どういうふうに移動していくということが最も市民ニーズにかなうことなのかと、その辺を見通したときのバスってものの位置づけというのが改めて問われてくるのかなと思います。

もちろん、地域公共交通網形成計画というのが既にあるということですがけれども、それがそういった踏み込んだものになっているのかどうか、そういった問題もありますし、それから利便性のよい交通ネットワークといっても、公共交通として考えていくっていうことの限界ということも、やはり同時に考えていく必要があるんじゃないかと。

つまりバスを走らせるっていても、どこでも赤字運営なわけです。この現実問題、だから路線を減らさざるを得ない、本数を減らさざるを得ないというような方向になっていってしまうと、市民はやっぱり必要だ、行政は金がないと、大体がこの構図です。こういう発想からも、そろそろ抜け出していくということを考える必要があるのではないかと、ましてや北総線問題は、なかなか運賃は下がらない、競争性がないから運賃が下がらないという物理的な難しさが一方であるわけですがけれども、北総線値下げっていうことを公共交通問題の中心に掲げていくっていうことが、本当に白井にとってプラスなのかどうかということも、本気で考えていく必要もあるんじゃないかというふうに思います。

もちろん、都心まで数十分で行けるといふようなメリットが、もちろん一方ではあるとは思いますが、そうしたもうちょっと多角的視点から、要するに移動の利便性ということを考えていくということが必要になってくるのではないかと。これは勉強会のときも申し上げましたけれども、公共交通って要するに行政が税金を出して交通網というものを整備していくという発想は、もはや限界に向かっていっているのではないかと、言いかえるともっと、先ほど委員がシェアっておっしゃったけれども、もっと移動ということを考え

ていくときにもシェアっていう発想を豊かに持っていくってということも、そろそろ我々考え始めなきゃいけないんじゃないかというふうには思います。

例えば、病院に行くとか、買い物に行くということ一つをとっても、もちろんコミュニティバスのものもありますけれども、もっと言ってしまえば、例えばカーシェアリングみたいなものをどうシステムとして組み込んでいけるのかとか、シェアリングエコノミーなんていうことは、大分近年叫ばれておりますけれども、いろいろなところ、いろいろ生かし得るものというのがあると。白井の場合には、それがどういった形であるのか、ないのか、どんな交通網が将来的に必要とされているのか、やっぱりこういうニーズ調査、可能性の分析等々、研究調査等々は、やっぱり必要になってくるかというふうに思いますので、そういう射程の中で公共交通網ということを考えていくということが問われてくるかと思しますので、その辺も念頭に置いた上で、もう少しこの辺の位置づけ方を改善していく必要があるのではということで、やや厳し目の評価にさせていただいております。

ただ、そうすると、総合評価Bという方とCという方が、ちょうど半々なのです。なので、もうちょっと改善についての項目をこの後伺いながら、最終的に評価を固めたいと思いますけれども、この後は先ほどと同じように、それぞれ違いますから、それぞれ全部じゃなくてもかまいませんので、それぞれこの取り組みについては、もっとこうしたほうがいいんじゃないかというふうなことをご指摘いただきながら、内容を膨らませていければと思っています。どこからでもかまいませんので、ご発言いただければと思います。

【委員】

取り組み1がやっぱり気になっちゃうのですけれども、平成32年にコーディネーター数を20とというふうにしたい場合に、まず質問としては、そのコーディネーターというのは、コーディネートができる職員と、コーディネートをする市民の両方を指すのか、市民だけを指すのかというのがわからなかったので質問なのですけれども、例えば20人の市民をコーディネーターとして育成したいということを掲げた場合に、どういう戦略があり得るのかってことをどう考えていらっしゃるのか教えていただきたいです。

今、職員の研修と地域づくりコーディネーション入門講座というのが並列に書かれているのですけれども、多分講座をいっぱいただけで、あるいはシリーズをやっただけで、地域づくりのコーディネーターというのは育成されないと思うので、道筋としては、地域づくりコーディネートができる職員がトレーニングされて、この職員さんが地域に通う形で発掘をし、育成をして、そこと多分まちづくり協議会が連動して、どこかのモデル地域か何かで試行が行われてというような、どういうシナリオを掲げられているのかということ。

あともう1個言うと、市民の方がコーディネーターをしようと思うためのインセンティブがあるのか、ほかの市の事例を見ると、割とまちづくり協議会がやるプロジェクトみたいなものに予算がついていたりするのですけれども、非常に難しいと思うのですけれども、

今お考えのことを教えていただきたいと。

【市民活動支援課長】

まず、コーディネーターの数ということについての20人なのですが、これは市民のほうでの20人というような考え方であります。それで、あとは職員のほうのコーディネートという部分についてなのですが、ここ2年間やってきているものなのですが、例えば市民の方々、そしてあとは関係する団体の方々とかと非常にかかわりのあるような課、それからあとは計画策定とか、条例制定というようなことでワークショップをやったりだとか、そんなようなことをやったりするようなどころが多い課だとか、そういったところで主に若手の職員というようなことで、主事補、それから主事、主任主事、これは事務職ですけれども、それ以外に入庁して10年未満ぐらいの保健師とか、そういうような専門職の方々なんかも研修を受けてもらいたいというようなことで、地域づくりのコーディネートということでの研修は行っているところでございます。

それと、あとまちづくり協議会のお話だったですか、こちらについては、今ちょうど私どもが、まちづくり協議会の設立を何とかしようというようなことで、市内各小学校区が九つあるのですけれども、最終的な目標は、九つの小学校区にまちづくり協議会をつくっていききたいというような考えでいるところなのですが、今現在は一つもないということではありますけれども、さっき言った地域づくりのほうの職員の研修を受けた方々とか、あとは若い方々だけで地域に出て、いろいろなコーディネートをしたりとかってというのは、なかなか難しい部分があると思いますので、私どものほうでは、地域担当職員制度というようなことでチームをつくって、例えば課長クラスを1人入れるとか、その下に主幹クラスとか、副主幹クラスを入れていくとか、そんなような考えを持ってチーム編成をしながら、まちづくり協議会の中で地域担当職員制度を展開していきたいなど、そんなような考えでいるところでございます。

【委員】

ありがとうございます。基本的に、どんな研修をしているのですか。興味があるのですけれども。どんな能力が育成されているのですか。

【市民活動支援課長】

コーディネート型の職員研修なのですが、まず目的なのですが、まずコーディネートのスキルが必要になるというようなことで、本研修では行政と地域住民、団体等をコーディネートする能力を有する職員の育成というようなことを、目的でやっているところなのですが、主に研修の内容といたしますと、ファシリテーションというようなことでの座学をやるですとか、あとはワーク形式で研修のほうを進めてきているというようなところが多くなってきております。

ワークの一つとしては、市民とのやりとりでの課題というようなことをテーマにワークショップを開いたりですとか、あと会議中に使っている言葉と、だめな言葉というような

ことでのワークを展開したりですとか、会議の進行を妨げる要因ですとか、あとマッピング・コミュニケーションというようなことで、職員のほうがそれぞれワークショップで展開をしてきているということです。あとは、実際に模擬会議をやってみるだとか、そんなようなところを専門の講師の方、これはNPO法人国際ファシリテーション協会の方を講師に呼んで、それで全部でこれは29年の実績では午前、午後と1日がかりの研修を行ったということでございます。

【委員】

その職員さんが地域にもう行っているのですか。

【市民活動支援課長】

中には、保健師なんかは、もう比較的市民の方々と接して、いろいろ保健指導をやるとか栄養指導というようなことをやっていますので、地域に出て行ってやっている者もいると思います。

【委員】

その方々が地域のコーディネーターを発掘するってということですか。それとはまた違う。

【市民活動支援課長】

それとは、また違います。地域のコーディネートって、市民の方という意味だと思うのですけれども、市民の方については。

【委員】

違う講座で。

【市民活動支援課長】

そうです。

【委員】

その二つは、全然違うのですか。済みません。

【市民活動支援課長】

今、それは連動するようにはなっていないです。

【委員】

連動しないと、うまく有機的に回っていかないのではないのかなと思います。

保健師さんとか地域に出ていく方も、ファシリテーションって誰でもできるわけじゃないので、職員の方に研修されていて、その方々が地域に出るっていう設定にありながら、その方々が発掘をするエージェントとして活躍されないのってもったいない。

【委員】

今のお話と関連して、多分コーディネーターって二つタイプがあつて。

一つは特に市民の方を発掘するとき、計画策定にいらっしゃっている方とか、あと講座を卒業した方というようなキーパーソンになり得るような人を発掘しているのと。

でももう一つの庁舎内のコーディネーターを発掘するまではまだいってなくて、本当

に役職指定じゃないですけども、そういう感じの違いがあるのかなと思うのです。

私、最近、そういうキーパーソンのことをサンディエゴの研究者と研究するときに、ナチュラルヘルパーっていう呼び方をしています。

例えばナチュラルヘルパー細胞というのがあるらしくて、例えばがんか何かを治すときに、いろいろな細胞を免疫細胞かわからないですけども、集めてくるような役割のある細胞がナチュラルヘルパー細胞っていうらしいのです。それが人間界にもいるでしょう、そういう人っていう、いわゆる地域でお世話やきして下さるようなキーパーソンが、多分市民だったら発掘されていると思うのです。でも、行政の職員の中でそれができているかという、まだできていないのかなという気がしていて、おそらくいらっしゃると思うのです。職員の方でナチュラルヘルパー的な方というのが。

最近、本学の同僚の先生のネットワーク分析の研究発表を見る機会がありまして、ある医療機関での看護師さんたちのやりとりを分析しているネットワーク分析の結果を見たのですけれども、実は部課長クラスの人ではなくて、中堅の看護師がいろいろな人とコミュニケーションをとっているキーマンだったっていう結果が出ていたのです。

ですから、おそらく白井市役所の中にも、中堅かどうかわかりませんが、結構いろいろな上司とも部下とも横のつながりで同僚とってというような形で、つながりの中心にいる人っているんじゃないかなと思うので、そういう人を発掘する方法って何かないのかなっていうことを今、お聞きしながら考えていました。市役所の中のナチュラルヘルパー的な人ですね。ちょっとまだそのノウハウは思い浮かばないですけども。

【委員】

そういう人がいないから、いないからって言ったら変ですけども、市役所の職員の研修をやったということですね。

【市民活動支援課長】

そうですね。

【委員】

そのコーディネーターっていうのが、ここに3種類あるのですね。市民間、団体間の活動をコーディネートする市民のコーディネーターと、まちサポのコーディネーター、それからもう一つ、3-2でありました生活支援コーディネーター、何でもコーディネーターっていっぱいあるんだけど、みんなそれぞれどう違うのと、ちょっとよくわからないのだけれども。だから3種類、4種類あるっていうことですかね。

【市民活動支援課長】

コーディネーターというのは、いろいろ各課がいろいろな仕事をやっていく上で、市民の方といろいろ相談、市民から受けたときに、その方の相談をどうつなげていくかだとか、さまざまなコーディネートの方があつたりしますので、そこら辺を本当の窓口対応だけで終わらせるのではなくて、きちんと一人一人の市民の方々の要望というか、お話を聞いて

て、きちんとしたつなぎ方をしていくというところもコーディネーターの一つにということにはなってはいます。

【委員】

悪いですけども、それは市役所の人、本来の仕事じゃないのですか。仕事をわざわざコーディネーターっていう言い方がちょっと変だし、そこまで研修をやる必要はあるのかなと思いますけれども。

【委員】

今、委員さんがおっしゃったように、もしそれが当然なのかもしれないけれども、それができない方が多いから、こういうものが多分必要なんじゃないかと思われるのですが、私なんかも大学にいと、職員、例えばクレーム対応で電話がかかってきました。その人がどこに電話するか、話をきちんと聞いてあげるかによって、それが大ごとになるか、パツと終わるかというのが本当に変わってきて、誰が電話をとったかって本当に重要であつて、でも、それが本当にできる人とできない人って、言ってもできない人はできないので、できる人を育成しなきゃいけないと思う。

きっと、できる人って仕事がきちゅうから、その人を外に出しちゃうと課は困っちゃつてというような、そういうのがあるんじゃないかなというふうに予測はされるのですけれども、だから今いる人材をどう活用するかという中で、可能性がある人も含めて育成していくということも含まれているという感じですか。

【市民活動支援課長】

そういうような考えです。

【委員】

私は、別にそれに反対とか何とかという意味ではないですけども、ここで言っているものというのは、地域まちづくり協議会をつくるためのコーディネート、要するに市がこういうことのまちづくりをつくってほしいですよ、市の中でこの、さっきおっしゃいましたよね、小学校区の中でまちづくりをやってほしいと、市の職員はどこでどういうふうにつなげていくかというのは、みんな統一的な見解を持っておかないと、うまくできない。だから講習をやる、それがコーディネーター研修ですよと、そういう意味じゃないの。

【市民活動支援課長】

まちづくり協議会をやっていく上での当然、地域担当職員ということでのコーディネートも必要になってきますし、そうではなくて、個々の課が対応するにあたってそれぞれの課のコーディネート機能というものが必要になってくるということで、ここでは二つの部分が入っていくというような、そういう考えだと思います。

繰り返しになりますが、まちづくり協議会をこれからつくっていくためのコーディネート研修ということではないということです。

【委員】

まちづくりのためだけじゃないというのは、庁内の調整とか、横とか担当者とのすり合わせとか、あれが実はすごく大事だと思っていて、それができる人とか、できない人もいろいろいらっしやると思うので、そういうものを含めたものという意味で養成するっていうふうには私としては思っているのですけれども。いかがですか。

【委員】

私は、この職員向けのコーディネート講座って、すごく重要な取り組みだなと思っておりまして。というのは、これ5施策目ですけれども、これまでの取り組みって、どれを見ても、結局は庁舎内のほかの部署の今までかかわりがなかったところと一緒にやらないと進まないよねっていうことだったと思うのです。

ですから、そこを推進していくためには、やはり今までになかった職員の方の視点を育てていくという作業が非常に重要だなと思っていますので、これは本当にぜひとももっと推進してほしい事業の一つだなと思っています。

【委員】

三つ研修があって講座があって、三つの取り組みがあって、しかも地域担当職員制度っていうのがあるのであれば、三つの研修や講座を受けた方々を串刺しにしたような連合チームみたいなのをつくって、今、座学の段階じゃないですか。座学とかワークの段階じゃなくて、マッピングとかファシリテーションとか、一応そういうのをあらかじめやっているわけですね。

そしたら、なぜこの人たちを生かして、例えばどこかの地域で、実際の課題を発掘してから課題解消までというのをモデル的にやって、そことまちづくり協議会のことを連動させてということができないのかなと。

何か全部の玉はそろっているのに、なぜそれを動かしてミックスとしてやっていないのかなと思います。

【市民活動支援課長】

ちょっと私の説明がいけなかったのかもしれませんが、地域担当職員の制度というのは、まだないのです。今、これからその制度をまずつくっていきたいというような段階なのです。その地域担当職員制度の中で、先ほど言った、例えば課長職を入れていくとか、どういうチームにしていくかというのは、これからの検討の部分になってきまして、これができ上がってきてから、地域のまちづくり協議会というようなところでの準備に当たる中で、そういった職員さんに一緒に入ってもらいながら、地域の市民の方々と話し合いを進めていったりとか、ワークをやったりというような、そういうことをやっていきたいなということで、その地域担当職員を今考えているところです。

【委員】

そこに多分、コーディネート講座を受けた方々が基本的には入っていってくると、ありがたいかなと。

【市民活動支援課長】

そうですね。あとは、私どもが考えているのは、市民の方々のコーディネートの講座を受けられた方というのが、また今年度もやったりとかしていくのですけれども、最終的には、例えば市がいろいろな計画を策定しますけれども、計画策定に当たって、市民に非常にかかわりのある条例だとか計画を策定する際には、市民参加でいろいろなワークショップをやったりとか、委員会、審議会をやったりとかということがありますから、そういった中でワークショップをやる際に、市民のコーディネート講座を受けられた方に入っただきながら、そこで実際のコーディネートっていうような、あとはファシリテーションというようなところですか、そんなようなところを發揮していただきたいという考えもあります。

【会長】

それとのかかわり、私のほうからも一言だけ、そういったいろいろな意味でのコーディネート機能というものを高めていくと、そのための我々、アーキテクチャーという言い方をしますけれども、そうした物理的環境を整えていくっていうことも必要になってきますけれども。

ただ、今のお話を伺っていて、職員研修をやって、そういうコーディネートできる人材というものをどんどんふやしていくのだというのは、一面においてそのとおりだと思うのですけれども、ちょっと違った視点から見ると、優秀な職員はいっぱいいるはずなものです。いますよ、白井市役所の中に。だけれども、例えば中堅とか若手の立場で現場に入っていて、市民の方々といろいろな話をする、いろいろな企画を一緒に考えたりする、いろいろなアイデアを共有したりする、それを持ち上げて、役所の中でしっかりそれを議論というものをやっていくのだというふうな回路というものが、どれだけ開かれているのかどうかという話と、実は人材育成というのは密接不可分です。

つまり、優秀な人材がいても、組織環境としていろいろなことをつないでいくっていうことができなければ、どれだけ立派な人材育成をしたって、行政機能を高めていけないです。

そういう意味では、人材育成というのは、常に組織環境と表裏一体のところがあるわけで、両方をあわせて考えていくっていうことをしないと、これはほかの役所を見ても、優秀な人材が宝の持ち腐れ状況だということところが実はいっぱいあるのです。もっとひどくなると、やめていきます、そういう職員は。というふうな状況まである。だからそういう意味でも、環境をどう整えていけるか。

私がよく管理職研修で申し上げるのは、協働を進めていくのだったら、役所内分権をやれって言うのです。つまりトップが力を持ち過ぎて、何でも上に吸い上げていって、上でトップダウン的な決断しかしないっていうところは、市民参加も広がらない、下からのアイデアも膨らんでこない、ましていろいろなことも機能していかないと。どんどんもっと

中堅、若手に一定の裁量を持たせてやらせるというふうな組織環境、手続環境というのが出てこない、優秀な人材というのは育っていかないし、力も発揮できないというところもあると思いますので、そういうこともあわせて考えていく必要があるのかなということは申し上げておきたいと思います。

とにかく、1が非常に意見としては多いのですけれども、2と3についてはいかがですか。ちょっと時間過ぎていますが、もし何かあれば、ぜひお願いしたいと思います。

【委員】

事前質問でも書いたのですけれども、30年度の事務事業評価シートの最後にありますけれども、コミュニティバスの収支のコストが出ていますね。

やはり、路線変更によって、コストがかかるようになっているのですね。私。鎌ヶ谷駅で乗っていたりしたことがあるのですけれども、ほぼ満員で行列をつくっていました。ドル箱路線です、あれ。

それぐらいのバスが、この間乗ったらガラガラ状態です。これはコスト的にもかなり、もちろん民間との競合っていうのもあるのでしょうけれども、やっぱり行政だってコストを無視した路線変更っていうのも、どうなのかなっていう気がしますので、税金の無駄遣いと言うなら、こういうことこそ無駄遣いで、満杯のバスがガラガラになるよりは、みんな使っていたのだし、そういう視点から行政って考えなきゃいけないのかなと思います。今後、ご検討いただきたいなと思います。

【会長】

課長から一言。

【都市計画課長】

交通網は非常に難しい問題で、ただ、私としては、民間でできるところはなるべく民間でやってもらいたいというのが、基本的にはあるのです。

ただ、それが先ほどお話あったように、それもすごく難しくなっている状況で、まだ白井はそんなにひどくはないです。ただ、地方を見るとひどい状況が多くて、そこに関して一つは考えていかなきゃいけないだろうと。

去年のバスの路線の変更ということよりも、去年うちのほうで策定いたしました地域公共交通網形成計画というのができましたので、従来そういう民間事業者とあんまり膝をつき合わせたような話はできてこなかったですが、今後はそういうのをして、これも非常に難しいのですけれども、確かにこのままだと市のバスも、このままじゃいけない。ただ、採算をとるようなことでやるのであるならば、それは民でやってもらえないかなっていうのは、基本的にベースにはあります。すごく難しいですけれども。

さっき言った、これも賄えないというようなときに、おっしゃったようなシェアとかいう発想もありなのだと思うのですけれども、あれもある意味では民間のお客を奪うことになっていく、すごく難しいのですね。

全体がうまく回るようにするためには、どうしていったらいいのかなというのは、今後よく検討していきたいなとは思っております。

基本的なところでは、乗用車の依存というのをなるべく減らしていくというのが大事なのかなとは思っています。自家用車依存体質というのを少しでも変えていければ、それが10%でも20%でも変えていくと、その分が公共交通のほうに回っていくような経済の仕組みみたいなものをつくっていくことが大事なのじゃないかなとは思っております。

【会長】

ほかには、よろしいでしょうか。じゃあ、とりあえず評価としてはと言いますか、意見交換としては以上ということで、改めて最後、総合評価を固めたいと思えますけれども、先ほど申し上げたように、BとCがちょうど半々ですので、どうしましょうか。Bの方、Cの方、ニュアンスを加えていただいて、Bに近いCなのだ、Cに近いBなのだ。なかなか、これもちょっと次年度以降に向けて評価のA、B、C、D、もうちょっと工夫しないと、皆さんつけづらいところもあるかもしれませんので、その辺は改善を図りたいと思えますけれども。誰か総合評価についてご意見があれば。

【委員】

2次評価でも、今後の市民の意向を注視していくことというふうなこともありますし、1次評価はおおむね順調としていますので、変な言い方ですけれども、Cに近いBという評価でいいのじゃないですかね。

【会長】

いいと思います。基本、B評価ということで、ただ今かなり厳しいご意見も出ましたので、それを加えて、評価内容としても加えていくということでどうでしょうか。

やっぱりCのほうがいいのじゃないかと、ふさわしいんじゃないかとかいう方は、いらっしゃいませんか。

【委員】

そもそも論ですけれども、人と人を結ぶことと、地域を結ぶことを一緒の項目で評価することが、無理がある。

僕は、例えばコーディネーター養成とかは評価します。人の結びつき、人をつなぐというような、拠点がつながる、だけど交通とそれは一緒にしていいのかなと、これは別の問題だから、これを一緒にして評価すること自体が難しいので、私はこの交通に関してはC評価です。ですけれども、人材育成についてはBというように考えますけれども、これを一緒にしてBだ、Cだっていうのはちょっと難しいなと思います。この項目自体に無理がある。

【会長】

全くそのとおり。でも、とりあえず今回は、一応このフレームでやりましたので、評価としては、Cに近いB評価というような形でさせていただいて、評価内容としては人材育

成等々については、いろいろな観点からやられてはいると。ただ、どういう意味でコーディネートしていくのかという部分の踏み込みの弱さだとか、あるいは組織との関係をどう捉えていくのかということですかという、そういう課題がありますし、まちサポとか、まち協とのかかわりということももっと踏み込んで捉えていくべきではないか。

それから、バスについては一方ではコストの問題、他方ではニーズの問題という、これのバランスのあり方というものが、ちょっと市民目線からすると不満が残るというふうなご意見が比較的多かったというふうには思います。

先ほどご指摘いただいたようなことも含めて、評価理由ということで、改めてまとめさせていただきたいと思いますけれども、総合評価としてはB評価というふうにさせていただきたいと思います。

それから、この後に向けた改善項目ですけれども、これもいろいろお出しいただいておりますけれども、一つは研修のあり方、コーディネーター育成、職員コーディネーター、市民コーディネーター、この辺をどうさらに踏み込んで、どんな方向で、どんな人材を育成していくのかということをもっと詰めていく必要があるのじゃないかと。

地区担当職員制度、これもこれから本格化させるというふうなことですけれども、この辺のあり方、あるいはチームとしての活用のあり方、いろいろあり得るのじゃないかといったご意見もいただきましたし、それから委員のほうから、ナチュラルヘルパーという、要するにまさに免疫学ですね、自浄作用というものが、自然の摂理というか、自然のものとして期待される、そういう中で回復に向けた役割を果たし得る人材を地域の中、あるいは役所の中で、そういった人材というものをどういうふうに発掘、育成していくのかということ、これも非常に大きな今後の人材育成のポイントになっていくのではないかとということも、項目としては、改めてあげておきたいと思います。

それから、まちサポのあり方、これも始まったばかりですけれども、これからどんな位置づけ、どんな役割を果たしていくのかと、いろいろな踏み込んだアイデアを出し得るところですけれども、一応項目としては確認をしておきたいと思います。

あと、先ほど私のほうからも申し上げましたけれども、現場からの声っていうことをどういうふうにつなげているのかということですね。

例えば保健師さんたちが、まさに地域の現場でいろいろなサポートをしていると、そういう中で、こういうことはもっと協働でやっていかなきゃいけないのだ、そういう例えば現場の保健師さんたちの声が、どんな形でつながれているのかどうかなんていうふうなことを考えていくと、実は現場の声を拾い上げていく難しさというのが一方ではある。だけれども、そういうことを職員の行動の仕方において、あるいは組織のあり方においても、しっかりつないでいくようなあり方をしないと、まずいのじゃないかというふうなことも論点としては上げておきたいと思います。

それからあと、バスのコスト、ニーズのバランスをどういうふうに図っていくべきなの

かということ、それからこういった道路ネットワークの整備ということで、先ほど市民への見せ方というふうなことも出ましたけれども、どんな道路計画が、どんな優先順位で、どんな形で進められているのかということをも多分、市民はほとんどご存じないという、そういう状況の中で、これだけ特出しされても、なかなか見えてこないところもありますけれども、そういった情報発信のあり方も少し工夫をしていく必要があるのじゃないかといったこともありましたので、その点も一応つけ加えておきたいと思えます。

こういった改善項目について、この後さらに深掘りできればと思えますけれども、こういった論点でよろしいでしょうか。それぞれ三つ異なるところもありますので、どこまで深掘りできるかはわかりませんが、一応そういった改善項目について確認をさせていただきました。

3 閉会

【会長】

以上をもちまして、第3回白井市総合計画審議会を閉会いたします。